

リアホサ

あなたの家族を高めてくれるビジョンを作り上げる方法, 28 ページ

悪を善に見せるサタン戦略を見抜く, 18 ページ

ジョセフ・スミス — 「どの教会に加わればよいでしょうか」, 34 ページ

扶助協会の姉妹たち — どのように互いを見守るか, 7, 8, 10 ページ



神は口を閉ざしては
おられません！
神はその子供たちを
愛しておられます。
わたしたちを暗闇に取り残して
迷うがままにはなさいません。

ディーター・F・ワークトドルフ管長

大管長会メッセージ, 4 ページから



34 聖徒たち——
末日におけるイエス・キリスト
教会の物語
第2章：彼に聞きなさい
「それは……早春、美しい晴れた
日の朝のことでした。」

シリーズ

8 壇上から——訪問教師は神の使者
アリス・C・スミス

10 教会での奉仕——
安らぎを見いだす場所
ネティール・H・フランシス

12 2017年10月の大会ノート

14 わたしたちが信じていること——
わたしたちに希望がある理由

16 熟考——日の出の光景
ドン・ジェンセン

38 信仰の肖像——
クリスチャン・カールソン

40 末日聖徒の声

80 また会う日まで——
主はわたしたちの重荷を軽くして
くださいます
ロバート・D・ヘイルズ長老

メッセージ

4 大管長会メッセージ
御自分の子供たちへの神の言葉
ディーター・F・ウークトドルフ管長

7 家庭訪問の原則
一人一人の姉妹のために名前を挙げて
祈る

特集

18 悪が善のように見え、
善が悪のように見えるとき
クエンティン・L・クック長老
サタンが欺きに使う最も効果的
な武器は、福音に従って生活す
ることによって得られる祝福をねじ曲
げて伝えることです。

26 古代の幕屋を通して見る
人生の旅路
幕屋が表す象徴は、神のもとに
戻るまでの旅路について教えてく
れます。

28 家族——幸福の源泉
エリック・W・コピシュカ長老
わたしたちは家族のビジョンを築
き、永続する幸福を手にすること
ができます。



表紙
写真/クリスティーナ・スミス

3月号は、大管長会が再組織される前に制作されました。



48

44 大陸の端から端まで —— 神殿への旅

エフライン・ロドリゲス

政治的混乱にある地域を何千キロも旅する中で、神殿に行くために必要な数々のドアが神の手によって開かれるのを見ました。

48 母の心に福音の種を植える

ソニア・パディーヤ・ロメロ

母に福音を伝えるためにあらゆる方法を使ったと思いましたが、ついにある一つのことを母の心を動かしました。

今月号の中に
隠れているリアホナを
捜しましょう。
ヒント——
学校で、どの科目が
いちばん好きですか。

50 イエスはキリストであられる —— 末日の預言者の証

キリストの特別な証人として、預言者は救い主の神聖な役割についてわたしたちが学ぶのを助けてくれます。

54 イエス・キリストについての事実、あなたについての事実

デビッド・A・エドワーズ

救い主のようになりなさいという戒めは、単に可能なのではなく、必ず達成できるものなのです。

56 預言者に従う

クラウディオ・R・M・コスタ長老

ジョセフ・スミスが預言者だと知ってから、わたしには、しなければいけないことがありました。それは、その後のわたしの人生を祝福してくれました。

60 自分自身を救うために大切なこと

マディソン・チャイルド

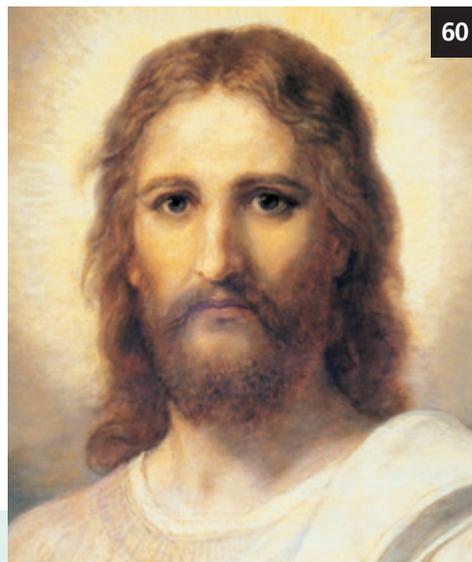
イエス・キリストと、キリストの恵みに頼るとき、わたしたちは救われ、自分自身を救うことができるのだと、やっと分かりました。

62 ポスター——救い主の贖いの力

63 そこが知りたい

完全に悔い改めたかどうか、どうすれば分かりますか。伴侶を選ぶとき、どうすれば正しい選択をしたと分かりますか。

64 わたしたちのスペース



60



76

66 光をかがやかせる —— いつでも助けます!

奉仕と、伝道と、いのりを通して、わたしは人々の光になることができます。

68 正しい選び

ジャスティナ・リヒナー

得意なことをいつも選べるわけではありませんが、どれぐらい努力するかは選ぶことができます。

70 いつもきょうだい

ジョーダン・ライト

わたしたち家族は神殿で結び固められたので、どんなことがあっても永遠に一緒にいられます。

72 キリストについて

あかしする使徒——

主は生きておられる

M・ラッセル・バラード長老

73 わたしは聖文を読むことができます——

アブラハムの聖約

74 音楽——ゲツセマネ

メラニー・ホフマン

76 聖文の物語——ノア

キム・ウェブ・リード

79 色をぬりましょう ——

天のお父様は約束を守ってください

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウグトルフ

十二使徒定員会: ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジェフリー・R・ホルダ, デビッド・A・ペドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファソン, ニール・L・アンターセン, ロナルド・A・ラスバンド, ゲーリー・E・スティーブソン, デール・G・レンランド

編集長: ヒューゴ・E・マルチネス
編集長補佐: ランドール・K・ベネット, キャロル・F・マッコンキー
顧問: ブライアン・K・アシュトン, ポニー・H・コードン, リグランド・R・カーティス, ジュニア, エドワード・デュボ, シャロン・ユーバンク, ドナルド・L・ホールストロム, ダグラス・D・ホームズ, エリック・W・コビシュカ

実務運営ディレクター: リチャード・I・ヒートン
教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク
ビジネスマネージャー: ガーフ・キャノン

編集主幹: アダム・C・オルソン
編集主幹補佐: ライアン・カー
出版補佐: フランシスカ・オルソン
執筆・編集: マリッサ・デニス, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリット, ローリー・フラー, キャレット・H・ガーフ, ラリー・ポーター, カント, ジョン・ライアン, ジェンセン, シャーロット・ラーカバル, マイケル・R・モリス, エリック・B・マードック, サリー・ジョンソン, オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, ジャン・ピンボロー, リチャード・M・ロムニー, ミンディー・セル, マリッサ・ワイティソン

編集インターン: サラ・C・キーナン
実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン
アートディレクター: タッド・R・ビーターソン
デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, マンディー・ベントリ, C・キンボール, ボット・トーマス, チャイルド, デビッド・グリーン, コリン・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スーザン・ロフグレン, スコット・M・ムーイ, エミリー・チエコ, レミントン, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・テアー, K・ニコール・ウォーケンホースト

デザインインターン: ケイティ・ブレディー
版権および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オーヌ
制作主幹: ジェーン・アン・ビーターソン
制作: アイラ・グレン・アデア, ジュリー・パーデット, トーマス・G・クローニン, ブライアン・W・キユギ, ギニー・J・ニルソン, デレク・リチャードソン
製版: ジョシュア・デニス

印刷ディレクター: スティーブ・T・ルイス
配送ディレクター: トロイ・R・パーカー

日本語版翻訳課長: 大森陽子
郵便宛先: Liahona, Fl. 23, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0023, USA.

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み、配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話: 03-3440-2351
価格 (2018年1月より) 年間購読: 国内 1,150円(送料込み)
海外 1,150円(送料実費)
海外在住の方はお近くのディスクリベーションセンターへのお申込みをお勧めします。
普通号/大会号 110円

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。
アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリル語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリル語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マジャール語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語 (発行頻度は言語により異なります。)

©2018 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 韓国
著作権情報: 制限の記載がない限り、「リアホナ」に掲載されているものは、個人的に、また非営利目的(教会の召しも含む)で使用する場合に複写することができます。この指示内容は変更の可能性に常にあります。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Fl. 13, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:
March 2018 Vol. 42 No. 3, LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 507.1.5.2). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

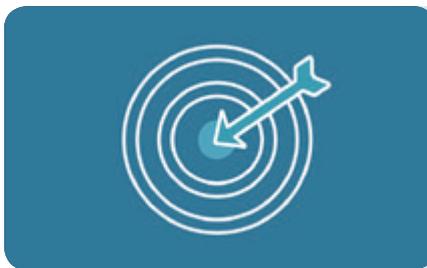
インターネットで得られる追加情報



以下で記事を読みましょう。
記事を投稿することもできます。
liahona.lds.org



心を鼓舞し、
共感できるメッセージを
以下で見つけましょう。
(英語, ポルトガル語,
スペイン語)
facebook.com/liahona



ご意見・ご提案は以下までお寄せ
ください。
liahona@ldschurch.org



定期購読を申し込みましょう。
store.lds.org
配送センターに行くことや、ワードの
指導者に聞くこともできます。
1-800-537-5971に電話も
できます(アメリカとカナダ)。

アイソトナ/Getty Images

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

証, 50, 72

イエス・キリスト, 14, 28, 34,
50, 54, 60, 62, 72, 74,
80

折り, 4, 7, 34, 42, 43, 63,
64, 66

回復, 4, 34

家族, 1, 8, 28

家族歴史, 38, 40, 64

活発化, 41

家庭訪問, 7, 8

逆境, 12

教会の召し, 10, 41

悔い改め, 60, 63

結婚, 18, 28, 44, 63

謙遜, 10, 34

財政管理, 18

死, 16, 70

贖罪, 10, 12, 50, 54, 60,

62, 63, 74, 80

ジョセフ・スミス, 34

神殿, 44, 48

救いの計画, 14, 16, 18, 50,

60, 70

聖文, 73

聖約, 68

選択の自由, 18, 63, 68

総大会, 4, 12

知恵の言葉, 18

伝道活動, 48, 64, 66

天の御父, 4, 34, 42, 79

奉仕, 8, 10

預言者, 50, 56, 76



大管長会第二顧問
ディーター・F・
ウークトドルフ管長

御自分の子供たちへの 神の言葉

神が男と女を創造して最初になされたことは、彼らに向かって語ることでした。¹ 聖文にそのことが記されています。彼らに授けるべき、不可欠な情報と大切な教えがあったからです。御父の目的は、彼らに重い責任を負わせたり、心配させたりすることではなく、彼らを幸福と永遠の栄光へと導くことにありました。

それは始まりにすぎず、その日から今日まで、神は御自分の子供たちに向かって語り続けてこられました。御父の言葉はあらゆる世代の弟子たちによって保存され、大切にされ、学ばれてきました。神の御心を求める人々によって尊ばれてきた御言葉は、「主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」という真理を証しています。²

これは時の初めからのパターンであり、今日も続いています。単なる聖書の昔話ではありません。神がその子供たちにとって必要不可欠なメッセージを伝達するために定められた方法なのです。神はわたしたちの中から人々を立て、彼らを預言者として召し、語るべき言葉を授けられます。わたしたちはその言葉を「あたかも〔主、御〕自身の口から出ているかのように……受け入れ〔る〕」よう勧められています。³ 救い主は次のように宣言されました。「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」⁴

神は口を閉ざしてはおられません！ これこそ、回復された中で最も栄光に満ちた、励みとなる、希望にあふれるメッセージの一つです。神はその子供たちを愛しておられます。

わたしたちを暗闇に取り残して迷うがままにはなさいません。

わたしたちには年2回、4月と10月に行われるすばらしい総大会の場で、主の僕を通して主の声を聴く機会が与えられています。

総大会の話者がお話の割り当てを受けてから説教壇にたどり着くまでの間に、計り知れない努力と祈り、研究が注ぎ込まれていることを個人的に証します。主が聖徒たちに聴いてほしいと望んでおられることを理解できるようにと心から願い求め、準備にかけてきた数えきれないほどの時間の結晶こそ、一つ一つの総大会のメッセージなのです。

わたしたち聴く側が、話者と同じくらいの時間をかけて備えるなら、どのような結果が生まれるでしょうか。大会を、主御自身からメッセージを受ける機会と捉えたら、総大会に対するわたしたちの取り組みはどう変わるでしょうか。わたしたちがどのような疑問や問題に直面していようとも、総大会で耳にする言葉や音楽を通して、個人的な答えを受けることができるのです。

天の御父はほんとうに自分に語り掛けておられるのだろうかと迷うことがあれば、初等協会の子供たちが「神の子です、わたしやあなた」と歌う簡素ながらも深遠な歌詞を思い出すようにお勧めします。主の目的は、あなたが「いつかみもとへ行けるように」助けることなのです。

天の御父の子供として御父と向き合うなら、「わたしを助けて導いて」、「すべきことをすべて教えてください」〔訳注——英語版より和訳〕と心の底からお願いできるはずで



このメッセージから教える

総大会の間、神が任命された僕たちの言葉に耳を傾けるなら、わたしたちは自らの疑問や問題に対する答えを個人的に受けることができます。訪問先の人たちと次のことについて話し合うとよいでしょう——総大会でそのような答えを受けるために、どのような準備ができるでしょうか。ワークドルフ管長はわたしたちに「真理の御霊を熱心に求める」よう勧めています。それはどのような意味だと思いませんか。どうしたら自分が備える際に取り入れることができるでしょうか。主の僕たちを通して主の言葉を聴くことができるよう備えるとき、教義と聖約第21章6節で述べられているほかに、どのような祝福が得られるでしょうか。訪問先の人たちに、今度の総大会で御霊が教えてくださったことを日記に書くように勧めてもよいでしょう。

御父は聖霊を通してあなたに語り掛けてくださるでしょう。それから先、「みこころ〔を〕行〔う〕」かどうかはあなた次第です。行うことを選ぶなら、「あふれる恵み」が待っていることをお約束します。⁵

主の導きは、世界の歴史上絶えず必要とされてきたように、今日も必要とされています。わたしたちが主の御言葉を聴く備えをするとき、真理の御霊を熱心に求めることができますように。そうすることによって、主がその僕を通して語られるとき、わたしたちが理解し、教化され、ともに喜ぶこと

ができるからです。⁶

「これらのことを行えば、地獄の門も〔わたしたち〕に打ち勝つことはな〔く、〕……主なる神は〔わたしたち〕の前から闇の力を追い払い、また、〔わたしたち〕のためと、神の名の栄光のために天を震わせる」ことを証します。⁷ ■

注

1. 創世 1:28 参照
2. アモス 3:7
3. 教義と聖約 21:5
4. 教義と聖約 1:38
5. 「神の子です」『賛美歌』189; 『子供の歌集』2-3 参照
6. 教義と聖約 50:21-22 参照
7. 教義と聖約 21:6 参照

神の声を聴く備え



神が男と女を創造して最初になさったのは、大切な情報や教えを授けるために彼らに向けて語ることだったとワークドルフ管長は説明しています。わたしたちは4月と10月の総大会でそれと同じ祝福を受けます。総大会では教会指導者がお話し、主がわたしたちに聴いてほしいと望んでおられることを勧告してくれるからです。

あなたは総大会の間に、主の僕を通して神の声を聴いたことがありますか。ある一つのメッセージから、自分が探していた答えを受けられたと感じたことはありますか。その経験について、そこからどのような助けを受け

たか、日記に書いてもよいでしょう。それから、今ある質問を書き留め、聖文研究のときに学ぶことで、今度の総大会で主の声を聴く準備をしましょう。天の御父に祈り、大会の間に答えと洞察を得られるようお願いしてください。主の僕の言葉に耳を傾けると、御霊の一つ一つの促しに集中するようにしましょう。どのようなことを学びましたか。変わるべきだという靈感をどのように感じましたか。そのような促しを書き留めましょう。それは御霊があなたに語りかけていることなのです。

天の御父があなたを愛しておられ、あなた

を正しい方向に導いてくださることをいつも覚えていてください。僕たちを通して御父の声を聴こうと努力するとき、あなたは祝福され、教化されることでしょう。

子供

総大会への じゅんびをしましょう

このカードを使って、総大会へのじゅんびをしましょう。このカードを手に持ちながら総大会を聞いて、学んだことを書きましょう。

- 質問を書きましょう。

とはなんだろう。

- 天父にいのってください。

について分かるように助けてください。

- 総大会の説教を聞きましょう。
わたしが学んだのは、

ということです。



一人一人の 姉妹のために 名前を挙げて 祈る

一人一人の姉妹のために、へりくだり、名前を挙げて具体的に祈るとき、訪問先の姉妹たちへの愛と彼女たちに関する霊感が増し加えられます。

ある姉妹は、人生の困難な時期の「特に暗い日」に、訪問教師から電話や短い携帯メールがよく届いたと言います。まるで彼女が励ましを必要としている時を知っているようでした。訪問しているときも、そうでないときも、訪問教師が自分のために祈ってくれていることを彼女は知っていました。

聖文には、人のために名前を挙げて祈った男女の例が数多くあります。最も劇的なのは、息子アルマの父の例でしょう。天使は息子アルマに、彼の父が「深い信仰をもってあなたのことを祈ってきた」と語り、こう続けました。「したがって、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるためである。」(モーサヤ 27:14)

ほかの人のために祈ることは、彼らのうえに天の御父の祝福があるよう懇願することであ



信仰・家族・扶助

るだけでなく、彼らを祝福する方法を知るうえでも助けになります。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように説いています。「全身全霊で人のために祈ると、主の御声をもっとよく聞こえるようになります。」¹

「すべての姉妹が毎朝毎晩心から祈りをささげ、さらには主が命じられているように絶えず祈るなら、一つに結束したわたしたちの力はどれほど大きいことでしょうか」と元中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は語っています。² 訪問先の姉妹のために祈ることで、わたしたちは個人としても、末日聖徒の女性としても強められるのです。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は、次のように述べています。「訪

問先の人々の思い……を知る方法を求めて祈ってください。人々を助けるために神が皆さんに何をするように望んでおられるかを知り、神がその人々に対して抱いておられる愛を感じながら最善を尽くしてそれを果たす必要があるのです。」³

注

1. デビッド・A・ベドナー「常に祈りなさい」『リアホナ』2008年11月号, 43
2. ジュリー・B・ベック「末日聖徒の女性が秀でている事柄——力強く確固として立つ」『リアホナ』2007年11月号, 110
3. ヘンリー・B・アイリング「神権と個人の祈り」『リアホナ』2015年5月号, 85-86 参照



考えてみましょう
訪問先の
姉妹一人一人のために
祈ったとき、
最近どのような
霊感や考えが
浮かびましたか。

仕え、教え、導く

このページでは、ある決まった言葉を提供するのではなく、より効果的に仕え、教え、導く助けとするために、毎月異なる原則に焦点を当てます。
毎月異なる原則に焦点を当てます。
祈り、霊感を求めるなら、訪問先の姉妹それぞれが必要としている霊的なメッセージや奉仕を知ることができるでしょう。

訪問教師は 神の使者

アリス・C・スミス

この新しいシリーズでは、書籍『壇上から——末日聖徒の女性による説教の185年』(At the Pulpit: 185 Years of Discourses by Latter-day Saint Women) から抜粋した献身的な女性とそのメッセージを採り上げます。

イエスはガリラヤの乾いた丘を登り、砂ぼこりの立つユダヤの道を歩みながら、貧困や病、あらゆる種類の苦悩を御覧になりました。悔い改めた罪人と悔い改めていない罪人を御覧になりました。苦しむ人たちにお会いになりました。そして、このような経験と非常に幅広い理解力から、主は「わたしのものにきなさい」という慈愛あふれる招きの言葉を発せられたのです。

1830年、預言者ジョセフ・スミスは、神は「変わることはない同じ神」であられると断言しています〔教義と聖約20:17〕。ですから、1843年7月28日に、16人の女性たちが「貧しい人や苦しんでいる人を探し出して……困っているすべての人を助ける」割り当てを受けたことには、何の不思議もありません。¹ 何百万人もいる世界での16人ですが、始めなければなりません。1843年に16人だった訪問教師が、現在〔1969年〕では10万人を優に超えています。明日は20万人、明後日には200万人になっているかもしれません。

何週間か前、わたしはすばらしい友人に会いました。長年扶助協会が熱心に働いてきた人です。……今は教



スミス姉妹について

アリス・コルトン・スミス(1913-2006年)は、1934年にコロンビア大学を卒業、1946年に夫とともにアメリカ合衆国ユタ州ローガンに移ってユタ州立大学で学び、社会学の修士号を取得、そのまま大学に残って教えるようになりました。助教授として1970年代半ばまで教鞭を執りましたが、扶助協会中央管理会の奉仕に集中するために退職しました。スミス姉妹は1964年に扶助協会中央管理会に召され、そこで14年間奉仕しました。彼女は、管理会に国際的かつ学術的な視点を持ち込みました。

スミス家族は1960年から1963年までオーストリアのウィーンに住み、その地にオーストリア初の末日聖徒の伝道部を立ち上げる召しに携わりました。

アリス・スミスはこの話を、1969年、扶助協会の大会における役員部の会で行いました。句読点や大文字〔英文〕は必要に応じて標準的な用法に修正してあります。

会で何をしているのか尋ねました。すると、そばにいて分かるほど大きく一息おいてから、彼女はこう答えたのです。「訪問教師だけなの。」訪問教師だけだということです。彼女と別れてから、救い主から次のように言われていたら、彼女はどう感じただろうか、とわたしは考えました。「わたしの使者になってほしいのです。わたしが〔訪問先の女性を〕愛していることと、彼女と家族に何が起きているか知りたいことを伝えてください。わたしの助け手となってこれらの姉妹たちを見守り、世話をし、彼女たちが皆わたしの王国で幸せになれるようにしてほしいのです。」そう言われた後で会っていたら、彼女の答えは違っていたのではないのでしょうか。主はすでに御自身の神権を通して、彼女の前に立っているかのようにして彼女を召しておられたのではなかったのでしょうか。

どれだけ多くの訪問教師たちが自分のことを「訪問教師だけ」と考えているのでしょうか。

訪問教師には、助けを必要としている人を探し出すという大きな責任が与えられています。それだけでなく、訪問教師は訪問することによって、だれかが愛し、神が愛してくださっている

ことを伝えます。

……訪問教師は月末に急いでやって来てこう言う人であってはなりません。「数分しか時間がないの。あなたはメッセージを読んでいるし、わたしなどよりよほどよく知っているの、メッセージは必要ないわよね。お元気で。次の扶助協会でお会いしましょう。」訪問教師は、訪問先の姉妹とその家庭にとって祝福となる愛を残して行くべきです。

……年々教会が発展するのに伴い、訪問教師はますます必要とされるようになっていきます。……訪問教師は、世界に蔓延する孤独や、大都市によくあ

る人間関係の希薄さと闘えるよう助け、旅人、夫に先立たれた人、孤児、傷ついている人、悩んでいる人の世話をします。結局、すべての姉妹に関心を寄せ、愛をもって助けるのです。……身体的、情緒的、精神的な苦痛を和らげ、罪人を助け、悲しんでいる人を慰めます。福音の愛のメッセージを全世界の教会の姉妹たちに届けます。……

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれ

ば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。』[マタイ 11:28 - 30]

神が訪問教師を祝福してくださいませう。皆で力を合わせて働けば、くびきは負いやすく、荷も軽くなるからです。

……いつでもそうでありますよう祈ります。アーメン。■

注

1. Former Relief Society Handbook, p. 29. *Handbook of the Relief Society of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints* (1931), 29 参照



安らぎを見いだす場所

ネティー・H・フランシス

扶助協会は、あらゆる状況にある姉妹が、互いに世話をし、仕え、愛し合うときに安らぎを見いだせる場所です。

家族でアメリカ合衆国ネバダ州ラスベガスに住んでいたころ、わたしは一時期ワードの扶助協会会長として奉仕しました。ワードのすばらしい姉妹たちとの交わりは、わたしにとって生きがいでした。皆の心を高めるような活動を計画すること、扶助協会の司会、ワードの指導者と同席する集会、様々な家族への奉仕などは、いずれも喜びを与えてくれました。

姉妹たちの家庭を訪問するのに多くの時間を費やしました。疲れ切ったり病気であったり、ただ気が滅入ってしまった母親たちにも仕えました。霊的にも肉体的にも慰めを必要としている姉妹たちでした。わたし自身が、6人の子供を持つ若い母親という責任以外でも、満たされ、必要とされていると感じました。

そんなとき、わたしの人生に突然変化が訪れました。

夫が昇進し、ほかの州に転属になったのです。1か月もしないうちにわたしたちは荷物をまとめ、明るいラスベガスの家を後にして、寒いワイオ

ミング州キャスパーの狭い借家へと引っ越しました。引っ越したその週に、わたしは妊娠していることが分かりました。それも双子です。

借家に到着した夜、体調が非常に悪くなりました。ベッドに横になり、ほとんど動けない状態だったわたしは、夫が一人で子供の世話をしながら引っ越しトラックから荷物を降ろすのを、ただ見ているしかありませんでした。人生最悪の肉体的試練の始まりでした。それからの4か月は吐きけがひどく、家族や子供の世話をするだけの体力もなく、時には食事すら作れませんでした。

夫が新しい仕事に慣れていったように、わたしも新しい町に慣れていき、子供4人の学校編入手続きを終えました。借家は狭く、窮屈で、荷ほどきが終わらないまま数週間が過ぎました。学校に通う子供たちを毎朝玄関で見送ると、その後は幼い二人をそばで遊ばせながら、長椅子で一日を過ごしました。

ある朝、子供たちが学校へ行った



後に玄関のベルが鳴りました。よちよち歩きの子供がドアを開けると、新しいワードの扶助協会会長会の姉妹がそこに立っていました。いろいろなものを入れたバスケットを手に、娘さんを連れて、わたしをワードに歓迎するために来てくれたのです。

わたしは恥ずかしくてたまりませんでした。

何しろパジャマ姿のまま、手もとにバケツを置いて、長椅子に横になっていたのですから。着替えの途中だった二人の子供は、荷ほどきのできていない箱に囲まれ、散らかった床で遊んでいました。



互いに助け合う

「姉妹であるということは、わたしたちの間に切っても切れないきずながあるということです。

姉妹は互いの世話をし、互いを気に掛け、慰め合い、楽しいときも苦しいときも助け合います。」

中央若い女性会長

ボニー・L・オスカーソン

「姉妹のきずな —— わたしたちは何と互いを必要としていることでしょうか」

『リアホナ』2014年5月号, 119

数か月後には、育ち盛りの子供のいる家族に見合った広い家を買うことができました。妊娠のつらい期間も終わり、かわいい双子の赤ちゃんが生まれました。扶助協会のあの優しい姉妹は親しい友人となり、彼女の証や模範は今でもわたしを強め、高めてくれています。初めて彼女が訪問してくれた、あのつらい朝のことをよく思い出します。そして、彼女がその召しを果たしてくれたことに感謝するのです。

神の前では、わたしたちは「皆、物乞い」であることを証します（モーサヤ4:19参照）。わたしたちを取り巻く環境は突如変化することがあり、そんなときに、天の御父と、御父に代わって奉仕してくれる人たちに自分がどれほど頼っているのか気づかされるのです。扶助協会は、あらゆる状況にある姉妹が、互いに世話をし、仕え、愛し合うときに安らぎを見いだせる場所です。今そのことをかつてないほど実感しています。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

このすばらしい姉妹は、家に入ってテーブルの隅にバスケットを置くと、散らかったりリビングに座り、わたしや家族のことをいろいろと聞いて、話し相手になってくれました。

話すにつれ、謙虚な気持ちになっていきました。ほんの数か月前、わたしは彼女と同じように訪問したり、助けを申し出たりしていたのに、今は逆の立場になっていました。散らかった家で暮らし、まともに起き上がることもできないで、心底助けを必要としていたのです。孤独で、気が滅入り、自分では対処できない状態にいました。わたしも助けが必要な姉妹の一人だっ

たのです。わたしには主が必要で、主の僕を通じて与えられる助けが必要だということを、主は速やかに、しかも巧みに思い起こさせてくださったのです。

彼女が帰った後も、わたしを歓迎するために用意してくれたバスケットを見ると、癒しと光を受けました。それから数週間、バスケットの中身に何かと助けられ、芽生え始めた友情に感謝しました。彼女は何度も訪問し、数か月続いた苦しい時期に助けの手を差し伸べてくれたのです。おかげで、一人の姉妹が与えられる希望と安らぎのすばらしさを再認識することができました。

2017年10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ[る。]……わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである」(教義と聖約1:38)。

2017年10月の総大会を振り返る際に、このページ(以前のおよび今後の大会ノート)を使って、生ける預言者、使徒、ほかの教会指導者が語った最近の教を学び、生活に取り入れることができます。



教義的な重要点



神聖な価値

「わたしたち一人一人に神聖な価値があることを御霊が伝えてくれ[ます]。……

ところで、『価値』と『ふさわしさ』という二つの重要な言葉は、区別して考える必要があります。同じではありません。霊的な『価値』とは、世がわたしたちを評価する方法でなく、天の御父と同じ方法で自分の価値を認めることです。わたしたちの価値は、地上に生まれる前に定められていました。……

その一方で、『ふさわしさ』は従順によって得られるものです。罪を犯すとふさわしさが低下しますが、価値が下がるわけではありません。わたしたちは同じ価値を保ちながら、悔い改めてイエスのようになろうと努め続けるのです。……どんなことがあっても、天の御父はわたしたちを価値ある者として見てくださいます。……

わたしたちが、救い主と、主がわたしたちのためにしてくださったことに対して感じる愛が、自分の弱点や自信喪失、悪い習慣に注ぐエネルギーより大きければ、主は、わたしたちの苦しみの原因となっているものに打ち勝つことができるように助けてくださいます。主はわたしたちをわたしたち自身から救ってくださるのです。」

中央初等協会会長

ジョイ・D・ジョーンズ

「計り知れない価値」

『リアホナ』2017年11月号, 14 - 15

神聖な時間と場所

「安息日と神殿はどちらも、神を礼拝し、神が子供たちに与えられる尊く、大いなる約束を受けて覚えるために特別に取っておかれた**神聖な時間**であり、**神聖な場所**です。神によって定められたように、この二つの神聖な助けの源の主要な目的はまったく同じです。すなわち、天の御父とその独り子と聖霊に対して、そして救い主の回復された福音の儀式と聖約にかかわる約束に対して、熱心に、繰り返し、心を向けることなのです。

重要なことに、個人と家族が、神の尊く、大いなる約束を心に留めるうえで最も効果的な時間と場所、この究極の組み合わせは家庭であるべきです。」

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

「尊く、大いなる約束」

『リアホナ』2017年11月号, 92 - 93

総大会説教を読んだり、見たり、聴いたりするには、lds.org/general-conference?lang=jpn にアクセスしてください。



自分が何者であるかを忘れない

「自分は、天の高貴な家系に属する、全宇宙を支配する天の両親の娘であることを覚えてください。

皆さんは霊的な神のDNAを持っているのです。皆さんには、自分の霊が創造されたときに授かった独特の賜物があり、それをこれまでの人生で伸ばしてきました。皆さんは神の子です。憐れみ深い永遠の神、主の主、宇宙をお創りになり、広大な宇宙に星を散りばめられ、定められた軌道に惑星を置かれた神の子供なのです。

皆さんは主の御手の内にあります。

とても素晴らしい手です。

愛に満ちた手です。

思いやりに満ちた手です。

だれが何と言おうとも、その事実を変えることはできません。神が皆さんについて語られる言葉に比べれば、人々の言葉は何の意味も成しません。

皆さんは神の貴い子供です。

御父は皆さんを愛しておられます。

つまり、神から顔を背けたとしても、神は皆さんを愛しておられます。道に迷い、見捨てられ、忘れられたと思っても、恐れなくてください。良い羊飼いは皆さんを見つけてくださいます。主は皆さんを御自分の肩に乗せて家に連れ帰ってくださるでしょう。」

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

「3人の姉妹」

『リアホナ』2017年11月号, 17



あなたの光をともしなさい

「戒めを守るとき、神は皆さんを御業の中で用いられます。神の業と栄光は、女性と男性に昇栄と永遠の命をもたらすことです。

姉妹の皆さん、預言者はわたしたちに呼びかけています。皆さんは義にかなっていますか。自分の信仰をしっかりと表現していますか。際立ち、異なっていますか。試練を受けていても幸せであり、皆さんの友情を必要としている善良な人、気高い人を引き寄せていますか。自分の光をともしていますか。主イエス・キリストがわたしたちの前を歩き、わたしたちの中におられることを証します。」

中央扶助協会会長第一顧問

シャロン・ユーバンク

「あなたの光をともしなさい」

『リアホナ』2017年11月号, 9

空欄を埋めましょう

これらの話者が話したことをさらに読むには、2017年11月号を用いるか、conference.lds.org をご覧ください。

1. 「天の御父の助けを _____ ならば、愛せないと思う人さえも愛せるよう御父が助けてくださ [います。]」—— ニール・F・マリOTT「神とつながり、破れを繕う」
2. 「わたしたちの多くは、素晴らしい _____ の旅をしています。…… 次のように自分に問いかけてみてください。『自分の最終目標は何だろうか。…… 自分の旅は、救い主が約束してくださった「数々の祝福」に通じているだろうか』と。」—— M・ラッセル・バラード「旅は続きます」
3. 「モルモン書は、わたしたちに与えられた神の貴重な賜物の一つです。モルモン書は剣でもあり盾でもあります。それは正しい者たちの心を守るために神の御言葉を戦場へ送り出し、真理の _____ として働きます。」—— タッド・R・カリスト「人の心を引きつける、神の証 —— モルモン書」

答え: 1. 請う; 2. 発見; 3. 大守護者

わたしたちに希望がある理由

天の御父は、あなたが御父のみもとに戻るための永遠の計画をお持ちです。神の御子イエス・キリストは、これまであなたとともにあり、これからも旅路のあらゆる段階でともにいてくださるでしょう。



前世での生活

前世において、天の御父は、わたしたちが御自身のようになるのを助ける計画をすべての霊の子供たちに提示されました。その計画には、わたしたちが肉体と霊の死を克服することを助ける救い主が必要でした。イエス・キリストは、わたしたちの救い主となり、天の御父に栄光を帰すことを申し出られました（モーセ4：1－2 参照）。

創造

天の御父の指示の下、イエス・キリストはわたしたちのために美しい世界を造られました（コロサイ1：15－16；3 ニーファイ9：15 参照）。「永遠という無窮の広がり、無限の宇宙と時間という栄光と神秘はすべて、皆さんやわたしのようなごく普通の人のために造られたのです。」（ディーター・F・ワークトドルフ管長、「あなたは御父にとって大切な存在です」『リアホナ』2011年11月号, 20）

地上での生活

この地上では、わたしたちはもう神の前にいませんが、イエス・キリストの福音がわたしたちを導いてくれます。わたしたちは時々罪を犯しますが、悔い改めるとき、救い主がわたしたちを癒し、赦してくださいます。救い主は、わたしたちが苦しみを受けて罪を克服できるように、「人にとっては……耐えようのない」（モーサヤ3：7）苦しみを受けられました（モーサヤ4：2；アルマ42：14－15 参照）。



死後の生活

死ぬと、わたしたちの霊と肉体が分離し、霊界で復活する時を待ちます。イエス・キリストが復活され、わたしたちすべてのために死を克服してくださったおかげで、わたしたちが忠実なら、家族や天の御父と再会することができるようになります。「霊と体は再び結合して完全な形になり」(アルマ 11:43) 永遠に生きるのです(1コリント 15:22; 2ニーファイ 9:4-13 参照)。



裁きの日

イエス・キリストはわたしたちの裁き主になられます。天の御父に対するわたしたちの弁護者であられる御方が、完全な、愛にあふれる、憐れみ深い、公正な裁きをされます。イエス・キリストは、わたしたちの言動や思いだけではなく、わたしたちがどのような人になったか、すなわちどれだけキリストに似た者になったかについても裁かれます(2ニーファイ 9:15; モーサヤ 4:30; 教義と聖約 45:3-5 参照)。



永遠の命

キリストのもとに来て、バプテスマや神殿の儀式のように、必要なすべての儀式を受け、戒めを忠実に守る人は、神の前において永遠の命を受け継ぐことができます。この祝福は、「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによ〔り〕」与えられるのです(2ニーファイ 2:8。モーサヤ 15:23 も参照)。

日の出の光景

ドン・ジエンセン

この人生で終わりなのではありません。非常に美しい、幸福な、喜びのある未来があるので。

経営する牧場で朝の作業を始めるとき、夜明け前の冬の朝は澄み切っていてひんやりとしていました。前の週の出来事について思い巡らしていると、わたしの心は沈みました。悲劇がわたしたちの小さな町を襲ったのです。高校時代の古い友人が、幼い息子と10代の娘、そしてその娘の3人の友達と一緒に、悲惨な自動車事故で命を落としました。わたしの子供たちは、事故に遭った少女たちの友達でした。わたしの家族や多くの人達は、事故に遭った家族と一緒にこの悲劇を嘆き悲しんで一週間を過ごしました。その週にすでに行われた3つの葬儀に出席し、亡くなった父親と二人の子供のために、その日、最後の葬儀に出席することになっていました。

この出来事を受け入れようとしたとき、わたしは二つの大きな疑問に心を悩ませました。

第1に、わたしが嘆き、不思議に思ったのは、なぜこのように年若い子供たちがこの世の人生で得られる多くのことを経験する前に取り去られてしまったのかということでした。彼らが成長し、結婚し、伝道し、子供をもうけ、死すべき人生において非常に多くの喜びを経験することはないのです。

第2に、わたしたちが同じ町に住む者として、家族を慰めるためにできるだけのことをしたいと思っていたのですが、できることは何もなく、彼らの悲しみに寄り添う努力が徒労に思えたことです。

わたしが作業をしていると、驚いた

ことに、亡くなった友人の義理の父親が訪ねて来ました。何があっても仕事を休めない同じ牧場主の彼は、すぐに1頭の子牛を買う必要があったのです。その取引を終えてから、わたしたちは彼と家族の様子について少しの間話をしました。彼らのためにもっと何かしたいというわたしの願いを彼に伝えました。自分があまりに非力で、彼らの苦痛を和らげることができないと感じていました。しかし、家族が大変な経験をしているのに、彼が非常に冷静で、平安に満ちていることに心を打たれました。

すると突然、わたしの疑問の一つに対する答えが最初から与えられていたことに気がつきました。悲しんでいるわたしの友人をどのように慰めたらよ



いかと心を砕いてきましたが、聖霊から来るほんとうの慰めと平安を忘れていました。事故に遭った家族は、天の御父だけが与えることがおできになる慰めをより豊かに受けることによって祝福されていたのです。わたしは、彼らがモルモン書に記されている主の慰めを受けていることを知りました。

「神は苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。また、あなたがたのことを弁護してくださる、……」

おお、あなたがた、心の清いすべての人よ、頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。あなたがたの思いが確固としていれば、とこしえにそうすることができるからである。」(モルモン書ヤコブ3:1-2)

別れのあいさつをしてから納屋の外に出ると、西の空に沈む満月が見えました。美しい光景でした。その後振り返ると、東に昇る太陽が見えました。空全体が彩られて生き生きとしているようでした。沈む月は愛らしく、昇る朝日は息をのむ美しさでした。立ち止まってこのコントラストについて考えたとき、わたしたちのこの世の生活がどれほど美しく、幸せであると思えても、わたしたちが忠実で従順であるときに将来与えられる生活の美しさや幸福と比べると、それは色あせてしまいます。この世を去った人は、ほんとうに何一つ失っていないことに気づきました。彼らは地上で雄々しい生活を送り、その後、より大いなる経験をし、喜びを享受し続けるのです。

その日、わたしは家族と一緒に最後の葬儀に出席しました。礼拝堂には入り切れないほどの人が詰めかけ、まさに地域全体の支援であふれていました。その日とそれからしばらくの間、町に住む人々は特別な平安を経験しました。親たちは子供を少し強く抱き締め、地上の生活が短く、もっと頻繁に家族や友人に愛を示さなければならないことをわたしたちは理解したのです。わたしは、わたしたちに対する主の愛と救いの計画の美しさを思い起こしました。この人生で終わりなのではありません。非常に美しい、幸福な、喜びのある未来があるのです。■
筆者はアメリカ合衆国アイダホ州在住です。



十二使徒定員会
クエンティン・L・
クック長老

悪が善のように見え、 善が悪のように 見えるとき

御父の計画に従って生活することで得られる祝福を
ねじ曲げて伝え、損ねようとする
サタンの働きかけ

天の御父の幸福の計画を妨害しようとするサタンの働きの最も狡猾な側面の一つが、悪の影響力や悪魔は存在しないという偽りの教えを伝え（2ニーファイ 28：22 参照）、悪を善、善を悪、闇を光、光を闇、苦いものを甘い、甘いものを苦いと定義を変えさせようとすることです（2ニーファイ 15：20 参照）。

これは時折、パラダイムシフトと呼ばれます。「通常の考え方や行動の規範が新しい別の方法に差し替えられるとき」に起こるものであり、¹ したがって現在の状態とまったく反対であるように表現されます。C・S・ルイスは、彼の古典小説『悪魔の手紙』の中で、先輩格の悪魔の観点からそれを書いています。ルイスは、皮肉と風刺を用いて伝統的な価値観を反転させ、悪が善、善が悪に見えるようにしているのです。²

これと同様の話があります。わたしは数か月前に、国際的



に広く知られている広告の専門家と興味深い会談を行いました。悪の影響と、間違っただけの結果について、わたしたちは語り合いました。

彼は、ルシフェルと広告代理店との打ち合わせについて興味深い仮想の話をしました。サタンは自分のジレンマを述べます。彼と彼に従う者たちは反抗し御父の計画を拒んできて、神には勝てないと分かっていました。ルシフェルは、御父の計画が喜びと幸福をもたらすのに対して、自分の計画がもたらす結果は悲しみと不幸だということを理解していました。従う者たちを引きつける方法が問題だと、ルシフェルは広告担当重役に説明します。

それで、成功をねらうルシフェルの唯一の希望は、パラダイムシフト、すなわち価値観の反転を成し遂げること、言い換えれば、御父の計画のもたらす結果は悲しみと不幸であり、ルシフェルの計画の結果は喜びと幸福であると触れ込むことなのです。

この仮想の会談は、今日の話を理解するのに有益です。

**知恵の言葉は約束を伴う有益な
健康習慣を推奨しており、
神の戒めに従って行動する人々は
「健康を受け、……知恵と、知識の大いなる
宝……〔を〕見いだす」と約束されています。**

実際、御父の計画に対する敵は、その計画の教義と原則を損ねようとするだけでなく、その計画からもたらされる祝福をねじ曲げて伝えようとしています。彼らが基本的に行おうとしていることは、善なるもの、義なるもの、喜びのあるものを不幸に見えるようにすることなのです。

これから、御父の計画に従って生活することで得られる祝福をねじ曲げて伝え、損ねようとするサタンの働きかけの幾つかについてお話しします。

知恵の言葉

これまでの生涯で、わたしは、多くの友人がアルコール飲料によって人生を傷つけられ、時には台なしにされた姿を見してきました。アルコールの文化は、教会の教義にのみかかわるものではありません。すべての人の健康と幸福にもかかわりがあります。末日聖徒は、この問題のもたらす結果について社会に情報を提供する、重要な代弁者になることができます。

御父の計画の中で——「陰謀を企てる人々の……悪ともくろみ」があることから与えられた——知恵の言葉は、健康の原則を提供しています。それは「すべての聖徒の中の弱い者および最も弱い者の能力に適するもの」です。知恵の言葉では、特定のものについての説明があります。例えば、「ぶどう酒や強い飲み物〔アルコール飲料〕……は……良いとされず……」などです。また、タバコと熱い飲み物（茶とコーヒー）は「体の……ためにならない」とも述べられています（教義と聖約 89：4, 3, 5, 8 - 9）。

この啓示は、約束を伴う有益な健康習慣も推奨しています。神の戒めに従って行動する人々は「健康を受け、……知恵と、知識の大いなる宝……〔を〕見いだす」と約束されています（教義と聖約 89：18 - 19）。³

サタンが用いる歪曲の仕方は、タバコとアルコール飲料を推奨する方法の中にはっきりと表れています。

仮想の広告代理店でさえ、今日、タバコを良いものと見せることは難しいことでしょう。預言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）は、1833 年に、啓示によって知恵の言葉を与えられました。1921 年、ヒーバー・J・グラント大管長（1856 - 1945 年）は、主より靈感を受けて、さらに十分に知恵の言葉に従って生活するようすべての聖徒に呼びかけました。⁴ 当時、大量販売と映画での美化によって、喫煙は、おしゃれで、洗練されており、楽しいとされていました。43 年後の 1964 年になって、アメリカ合衆国公衆衛生局長官は次のように結論づけています。「喫煙は、合衆国において、適切な治療を要する非常に重大な健康上の危険要因となっている。」⁵

喫煙の統計は、今日、議論の対象となりません。喫煙する人は喫煙しない人よりも心臓病や脳卒中、肺がんになる可能性が高く、喫煙で肺がんの危険性は 25 倍高まると推定されています。⁶

そのようにサタンが、おしゃれで、洗練されており、楽しい



と表現したものが、実のところ、結果として何百万もの人々を不幸にし、早死にさせているのです。

もう一つの例がアルコール飲料です。長年にわたって、わたしは1940年代に開始された研究プロジェクトをフォローしています。当初は、ハーバード大学に通っている268人が、生涯にわたって定期的に研究対象とされました。その後、女性を含むほかの人々が研究対象に加えられました。初期の研究の目的は、研究対象者が成功しており、幸福であることを確認することでした。

この研究から明らかとなった3つの重要な事項があります。第1に、大人の幸福は、子供時代の家族の幸福、特に親から受ける愛と思いやりに深く関係しています。⁷ 第2は、生涯幸福に暮らすためには健全で安定した結婚生活が重要であるということです。⁸ 第3は、結婚生活と生涯の成功と幸福に及ぼすアルコール飲料の悪影響です。アルコール中毒はアメリカ合衆国の家族の3分の1に影響を与えており、入院の4分の1がアルコール中毒に関係しています。それが死亡や体調不良、業績低下の大きな原因となっています。⁹

最近の『ワシントン・ポスト』紙の第一面に、アメリカ合衆国の連邦健康データに基づいた記事が掲載されていま

た。「アメリカの女性たちは、母親や祖母よりもはるかに多く、またははるかに頻繁に飲酒しており、アルコールの消費によってかつてなく大勢の人が亡くなっている。」その記事は次のように結論づけています。「現代の先端科学は、適度な飲酒のいわゆる効用を支持していない。」「アルコール消費の量にかかわらず、がんによる死亡の危険性が高まると思われる。」¹⁰

過去数年、全世界の多くの大学が、アルコールの使用を減らそうと努めてきました。その使用が、性的暴行や重大な健康問題を含む重大な反社会的行為を引き起こすからです。特に、多量の飲酒がその原因です。アルコールが若い人の脳に恐ろしい影響を及ぼすことは、現在、医学的に立証されています。¹¹

わたしはおもに個人の健康をテーマとして話していますので、飲酒運転による事故、肉体的暴行や性的暴行をアルコールのせいにする者、妊娠中の女性の飲酒が胎児の脳に与える影響など、飲酒の及ぼすほかの重大な結果については採り上げません。¹²

喫煙やアルコール依存症、麻薬のまん延¹³がまるで社会にとってあまり有害ではないかのように、わたしたちは現在、



悪の勢力が嗜好用マリファナの合法化を推奨するのを目の当たりにしています。

家族の選択

家族の選択も同じような傾向があります。御父の計画では、家族の役割が明確に定められています。

「家族——世界への宣言」には、次のように述べられています。「家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」¹⁴

別のパラダイムシフトとして、この計画とまったく相いれない、また結婚と家族に好意的でない、別の選択が肯定的な表現で言い広められるということが、現在の世界でかなり一般的になっています。

- 教育と職業を結婚と家族より優先するという、女性と男性の両者の選択。

- 意図的に子供をまったく、あるいはほとんど持たないという選択、¹⁵あるいは不都合なときに妊娠を終わらせるという選択。
- 神聖な結婚制度の代わりとして不道德な行為をするという選択。

サタンは女性を標的にして、母親の務めを退屈な重労働の袋小路であるかのように描いており、男性を標的にして、父親の務めを重要でないかのように、また妻に対する節操を「時代遅れ」であるかのように描いています。ポルノグラフィによって引き起こされる夫婦関係の疎遠と性的対象化は、神聖な結婚制度に代わる不道德な行為の一例です。それは、真理と義からの恐ろしい離反を明確に示しています。その離反はサタンが求めているものです。

不適切な代替の選択は、自由と平等という現世の目標を達成するのに役立つものであるかのように描かれています。そのような選択の結果として、女性が一生の間に産む子供の平均数は劇的に減少しています。世界の人々の46パーセントが、出生率が2.1に満たない国々に住んでいると推定されます。この出生率2.1は、人口が安定した状態に保たれるために必要な比率です。ヨーロッパとアジアの大半の国

は、この水準に達していません。イタリアと日本はともに、およそ1.3の出生率です。日本は2050年までに人口が1億2,000万人から約1億人に減少すると見込まれています。¹⁶

この世界的な人口減少を「人口動態の冬」と述べている人たちがいます。¹⁷ 多くの国に、死を迎える世代に取って代わる十分な数の子供たちがいないのです。

わたしが大きな関心を抱いているもう一つの現実についてお話ししましょう。わたしは2016年に、エルサレムで身の引き締まる経験をしました。世界ホロコースト記念館の一部である子供の記念エリアでのことです。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老とわたしは、二人のアメリカ人のユダヤ教指導者と一緒に、記念の花輪をささげました。ホロコーストで100万人を超えるユダヤ人の子供が殺されたと見られています。¹⁸

博物館を訪れたとき、わたしは感情を抑えられませんでした。そして、気持ちを落ち着けるため外に立っただけで、その恐ろしい出来事について考えました。すると、突然に気づいたことがありました。それは、合衆国だけで2年間に行われる墮胎の数が、第二次世界大戦のときのホロコーストで殺されたユダヤ人の子供たちとほぼ同数だということです。¹⁹

ユダヤ人の子供たちは、ユダヤ人だからということで殺されたのです。すべての歴史の中でこのようなことは一度もありません。しかし、わたしが心に強く感じたのは、子供たちがいなくなるということでした。子供たちを世に送り出すことは、天の御父の幸福の計画の神聖な一部なのです。人々は墮胎が広く行われているためにひどく無感覚かつ及び腰になり、多くの人がそれを心の背後に押しやり、意識から締め出そうとしています。明らかに、サタンは多くのレベルで子供たちの価値を攻撃しているのです。

墮胎には慎重に対応する必要があります。これは、個人を非難することや厳しく責めることでは恐らく解決できない問題です。船旅の長さや遭遇した嵐を理解することなしに船——すなわち、人——を判断しないように、と戒めた人がいます。²⁰ 加えて申し上げます。この嘆かわしい行為に関与している多くの人は、救い主についての証や御父の計画に関する知識のない人たちです。

しかし、神に報告する責任があると信じている人々にとって——またこの教会の会員でない多くの人々にとっても——これはとてつもない規模の悲劇となっています。このことと今話したばかりの人口動態の冬を一つに結び合わせ

ると、これはわたしたちの社会における重大な道徳的汚点です。

スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）はこのように教えています。「結婚生活における至上の幸福は、ある主要な要因によって相当に左右されます——子供を産み育てる、という要因です。……教会は、家族を……大きく制限する方策を是認することも、大目に見ることもできません。」²¹

子供たちの人数と間隔に関しては、母親の健康状態を考慮しなければなりません。また、それは夫と妻がよく祈って決めるべきことです。²² 部外者はそのような決定を決して裁いてはなりません。忠実な聖徒の中には、子供を持っていない人や結婚する機会のない人がいます。このような人々は、結果をたたえる究極の祝宴の場ですべての祝福にあずかることでしょう。²³

それにもかかわらず、ルシフェルは墮胎を支援し、恐るべきパラダイムシフトで、子供は喜びと幸福ではなく機会の喪失と不幸の象徴だと多くの人を説得してきました。

**御父の計画は家族によって達成されます。
家族の全員が重要であり、
それぞれの役割が麗しく、輝かしく、
充実しています。**

末日聖徒として、わたしたちは、子供の大切さに心と思いを向ける最前線にいななければなりません。わたしがたった今述べた、家族に対する攻撃は、最終的に悲しみと不幸という結果を招きます。

主の業と栄光は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」であると、主は述べておられます（モーセ1:39）。その計画は家族によって達成されます。家族の全員が重要であり、それぞれの役割が麗しく、輝かしく、充実しています。

家族の宣言は、御父の計画と合致しない選択の結果について、これ以上ないほど明らかにし、明確にこう宣言しています。「またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個

人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。」²⁴

この宣言には、結果をたたえる究極の祝宴と、御父の幸福の計画に合致しない選択の積み重ねがもたらす影響がはっきりと述べられています。

すべての結婚生活に、また子育てに、様々な問題や犠牲が伴います。しかし、現世と永遠の両方における報いは、息をのむほどすばらしいものです。その報いは愛ある天の御父から与えられるのです。

地に栄える

モルモン書の至る所で見られるなじみの聖文には、二つの部分があります。一つは「神の戒めを守るかぎり地に栄

**聖書とイエス・キリストの神性に対する攻撃は
きわめて明白であり、わたしの人生の中で
今日ほど顕著な時期はありません。
聖文で預言されているように、ルシフェルは、
この目的を果たすために
多くの手段を用いています。**

える」です。もう一つは「神の戒めを守らなければ神の御前から絶たれる」です（例として、アルマ 36 : 30 参照）。従順によって聖なる御霊の祝福を受けることが、地に栄えるための主要な要素であることは明らかです。

さらに、教会の神聖な教えは、この世の繁栄を得る最善の手段として必要なものを十分に得られるように定められています。この世におけるルシフェルのパラダイムシフトは、大きな富を求めるとともに、また見た目に非常に豪華な物を手に入れるようにあおることです。金持ちや有名人の生活様式に倣いたいとしきりに願う人たちがいるようです。過剰な富は忠実な教会員に約束されていませんし、それは通常、幸福をもたらしません。

一つの民として、末日聖徒は実際に栄えてきました。賢明な財政の原則には以下のものが含まれます。

- まず神の王国を求める。

- 働き、計画し、賢明に使う。
- 将来の計画を立てる。
- 神の王国を築くために富を使う。

ルシフェルの目的

祝福を不幸であるかのように描くことのほかに、ルシフェルは、御父の計画を損ない、イエス・キリストとその教義を信じる信仰を打ち砕こうとしています。聖書とイエス・キリストの神性に対する攻撃はきわめて明白であり、わたしの人生の中で今日ほど顕著な時期はありません。聖文で預言されているように、ルシフェルは、この目的を果たすために多くの手段を用いています。

間違った方向に導くことがその一つです。サタンの傭兵とすることがもう一つの手段です。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）はそれを見事にこう言っています。「多くの人がサタンの傭兵となり……そのような安値で買い取られているというのは、何という悲劇でしょうか。わずかな地位、わずかなお金、わずかな称賛、わずかなつかの間の名声。彼らは進んでサタンの命令を実行します。サタンはあらゆる種類の一時的な『報酬』を申し出ますが、日の栄えの通貨は持っていません。」²⁵

傭兵の影響の例として、モルモン書の中の命の木と大きな広々とした建物に関するリーハイの示現以上に適切なものは恐らくないでしょう。その建物の中にいる人たちは、鉄の棒を握って木の実を食べた人たちを指さしました。実を食べた人々は「あざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしま[いました。]」（1 ニーフアイ 8 : 27 - 28）

したがって、良くない選択の結果は、苦く、臭く、汚く、粗末な食事です。

これを、忠実な皆さんに約束されている栄光ある結果の祝宴と比較してみてください。皆さんは「主の栄光をもって満たされ」、「御霊により聖められてその体が更新され」、御父が持っておられるすべてを与えられます（教義と聖約 84 : 32, 33, 34 - 38 節も参照）。

このような結果の祝宴において、わたしたちが頂く霊的な食物は、おいしく、風味があり、甘美で、みずみずしく、栄養価が高く、充実しており、わたしたちの心に喜びを与えます。「イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを食べ[る]」とき（2 ニーフアイ 9 : 51）、わたした



ちは、狭い道をたどることができます。その道はまっすぐであり、わたしたちをイスラエルの聖者のもとへ導きます。「その御方の御名は、主なる神〔です。〕」(2 ニーファイ 9 : 41) ■

2017年2月7日、ブリガム・ヤング大学のディボーションで行われた説教、“A Banquet of Consequences: The Cumulative Result of All Choices,”(「結果の祝宴：すべての選択の積み重ねがもたらす結果」)から。英語の全文は speeches.byu.edu からご覧いただけます。

注

1. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 11th ed. (2003), “paradigm shift,” merriam-webster.com.
2. C・S・ルイス『悪魔の手紙』(1942年) 参照
3. Jed Woodworth, “The Word of Wisdom,” in *Revelations in Context: The Stories behind the Sections of the Doctrine and Covenants*, Matthew McBride and James Goldberg, eds. (2016), 183 – 89; “The Word of Wisdom,” June 1, 2013, history.lds.org 参照
4. 『歴代預言者の教え——ヒーパー・J・グラント』189 – 197 参照
5. *Smoking and Health: Report of the Advisory Committee to the Surgeon General of the Public Health Service*, PHS publication no. 1103 (1964), 33. *The Health Consequences of Smoking – 50 Years of Progress: A Report of the Surgeon General* (2014), surgeongeneral.gov も参照
6. “Health Effects of Cigarette Smoking,” Centers for Disease Control and

- Prevention, May 15, 2017, cdc.gov 参照
7. George E. Vaillant, *Triumphs of Experience: The Men of the Harvard Grant Study* (2012), 108 – 9 参照
8. Alvin Powell, “Decoding Keys to a Healthy Life,” *Harvard Gazette*, Feb. 2, 2012, news.harvard.edu 参照
9. Vaillant, *Triumphs of Experience*, 292 参照。それに比べて、活発な教会員を別個に長期にわたって行った調査結果は、望ましいものであった (James E. Enstrom and Lester Breslow, “Lifestyle and Reduced Mortality among Active California Mormons, 1980 – 2004,” *Preventive Medicine*, vol. 46, no. 2 [Feb. 2008], 133 – 36 参照)
10. Kimberly Kindy and Dan Keating, “For Women, Heavy Drinking Has Been Normalized. That’s Dangerous,” *Washington Post*, Dec. 23, 2016, washingtonpost.com。この結論は、Centers for Disease Control and Prevention (疾病管理予防センター) アルコールプログラムのロバート・D・プリューワーによる言葉の引用である。
11. “Fact Sheets — Underage Drinking,” Centers for Disease Control and Prevention, Oct. 20, 2016, cdc.gov 参照
12. Anne Schuchat, “The CDC’s Recommendations to Help Prevent Fetal Alcohol Spectrum Disorders,” *American Family Physician*, vol. 95, no. 1 (Jan. 1, 2017), 6 – 7, aafp.org 参照
13. “Inside a Killer Drug Epidemic: A Look at America’s Opioid Crisis,” *New York Times*, Jan. 6, 2017, nytimes.com 参照
14. 『家族——世界への宣言』[リアホナ] 2010年11月号, 129
15. 「一緒に生活している子供がいない25歳から34歳の比率は、1967年以降2倍を超えている。」(Emily Schondelmyer, “No Kids in the House: A Historical Look at Adults Living without Children,” U.S. Census Bureau, Dec. 20, 2016, census.gov)
16. *World Fertility Patterns 2015*, United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division, 2015, 6, un.org; “Birth and Fertility of the Resident Population,” Istat (Italian National Institute of Statistics), Nov. 28, 2016, istat.it; “The Future of World Religions: Population Growth Projections, 2010 – 2050, Buddhists,” Pew Research Center, Apr. 2, 2015, 6 – 12, 102 – 111, pewresearch.org; Adam Taylor, “It’s Official: Japan’s Population Is Dramatically Shrinking,” *Washington Post*, Feb. 26, 2016, washingtonpost.com; and Ana Swanson, “Japan’s Birth Rate Problem Is Way Worse Than Anyone Imagined,” *Washington Post*, Jan. 7, 2015, washingtonpost.com 参照
17. *The New Economic Reality: Demographic Winter*, BYUtv, byutv.org 参照
18. “Plight of Jewish Children,” *Holocaust Encyclopedia*, United States Holocaust Memorial Museum, ushmm.org “Plight of Jewish Children,” *Holocaust Encyclopedia*, United States Holocaust Memorial Museum, ushmm.org 参照
19. Reproductive Health: Data and Statistics: “Abortion,” Centers for Disease Control and Prevention, May 10, 2017, cdc.gov 参照。ここ数年、墮胎数は減ってはきているが、今なお高くて高い数値である。
20. 時折、トーマス・カーライル (1795 – 1881年) の言葉であるとされる。『手引き 第1部——ステーク会長およびビショップ』17.3.1 参照。この項は、強姦や近親相姦、母親の健康、胎児の重大な欠陥などを例外とする限定的な墮胎について述べたものである。
21. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, ed. Edward L. Kimball (1982), 328 – 329。『永遠の結婚 生徒用手引き』(教会教育システム手引き) 175 – 179. LDS.org も参照
22. Gordon B. Hinckley, *Cornerstones of a Happy Home* (pamphlet, 1984), 6, LDS.org 参照
23. 『手引き 第2部——教会の管理運営』1.3.3 参照
24. 『家族——世界への宣言』2
25. Neal A. Maxwell, *Things As They Really Are* (1978), 42.

古代の 幕屋

を通して見る 人生の旅路

現代の神殿と同様に、幕屋が表す象徴は、神のもとに戻るまでの旅路について教えてくれます。

何 千年にもわたり、神は神殿で、神権の儀式や神聖な聖約を用い、神の子供たちに救いの計画に関する永遠の真理を教えてこられました。

荒れ野の旅のさなか、イスラエルの民は、神が「彼らのうちに住」まわれるため、幕屋を造るように命じられました（出エジプト 29：46）。『幕屋』という言葉は文字どおり『住む場所』という意味を持ち、神がその聖なる場所に住んでおられるということを表すものである。イスラエルが野営したとき、その野営地の中央部に幕屋が設置された。（それは神が民の生活の中心であるという考えを象徴したものである。）¹

幕屋内の以下のものは、神のもとに帰ることについて何を教えているか考えましょう。

注

1. 『イエスと使徒たちの生涯と教え』 438
2. ヘブル人にあてたパウロの手紙の中で（8－10章）、偉大な大祭司であるイエス・キリストが「ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされた」ことを教えるために幕屋が使われている（ヘブル 9：12）。贖いのおかげで、わたしたちも「イエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることができる」（ヘブル 10：19）。

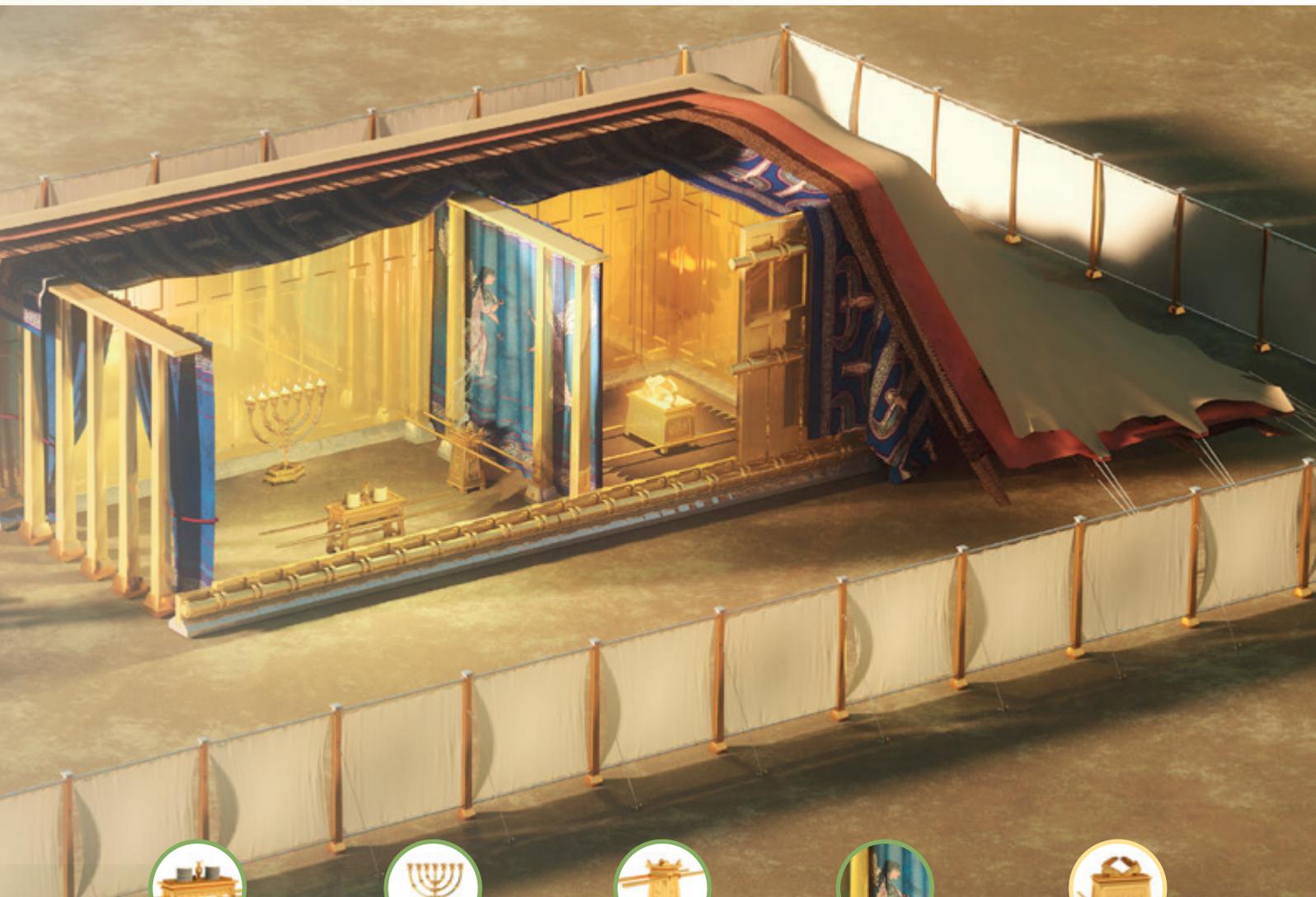


幕屋 —— 幕屋は3つの部分で構成されており、人はそれらを通して神のおられる所に到達する。外庭、聖所、^{しせいじよ}至聖所（出エジプト 25－30章参照）。



祭壇 —— モーセの律法は、この場所で犠牲をささげるよう定めている。それは、救い主とその「大いなる最後の犠牲」の予型である（アルマ 34：10 参照）。犠牲はわたしたちの悔い改めの象徴でもある。罪を捨て、打ち砕かれた心と悔いる霊をささげるのである（3ニーファイ 9：19－20；『聖句ガイド』『犠牲』の項参照）。

洗盤 —— 聖所に入る前に、祭司は青銅の洗盤を使って手足を洗った（出エジプト 30：19－21 参照）。これは、主のもとに帰る備えをするときに、清くあることが必要だということを思い起こさせてくれる（3ニーファイ 27：19－20 参照）。



供えのパンの机 — 安息日ごとに種入れぬパン 12 個を供えのパンの机に置いた。「供えのパン」とはヘブライ語で「御前のパン」の意味（出エジプト 25:30 参照）。安息日にはいつもそのパンを「永遠の〔聖〕約」として聖所で食した（レビ 24:5-9 参照）。



燭台 — 7つのともしびしよくがいは純粋なオリーブ油を燃料として、聖所を照らした（レビ 24:2-4 参照）。これは霊的な光の源であるキリストの光と聖霊を思い起こさせてくれる。



香の祭壇 — 祭司は毎日朝晩、垂れ幕の手前に置かれた祭壇で香をたいた。立ち上る煙は、天に上る祈りの象徴である（黙示 5:8 参照）。



垂れ幕 — 大祭司は垂れ幕を通して至聖所に入った。ケルビム、つまり天使の刺しゅうが垂れ幕に施されていた（出エジプト 26:31-33；教義と聖約 132:19 参照）。垂れ幕は、今わたしたちと神がおられる場所の間には幕があるが、大いなる大祭司、すなわちイエス・キリストはその幕をお分けになれることを思い起こさせる。



至聖所 — 大祭司は毎年 1 度、贖罪の日に、幕屋のこの最も神聖な場所に入った。至聖所は神のおられる場所の象徴であり、そこには契約の箱が納められていた。その箱のふたは贖罪所と呼ばれた。「その所でわたしはあなたに会い」「あなたに語るであろう」と主はモーセに言われた（出エジプト 25:22。出エジプト 29:43；30:36 も参照）。² ■





七十人
エリック・W・
コピシュカ長老

家族

——幸福の源泉

家族および家庭生活が幸福の源泉であるという考え方が、ここ数十年の間に著しく薄れてきました。伝統的な家族が世界規模の多種多様な発信源から攻撃を受けています。（本号の18ページで、クエンティン・L・クック長老がそのような攻撃について幾つか語っています。）しかし落とし穴や危険はほかにもあり、家族の重要性や神聖さ、永遠の行く末について知っている教会員ですら、そうした危機と無関係ではられない場合があります。

世の影響を受け、わたしたちは家族を、また自分たちの幸福を危険にさらしていません。俗世とその誘惑、身勝手な充足欲の高まり、快適さや安易なやり方を好む傾向といった影響です。人生の幸福が、「あらゆる面で苦勞のない生活」かどうかで決められることがあまりにも多く、わたしたちは「小さな投資、大きな見返り」方式でそのような生活を手にしたい、維持したいと望みがちです。

しかし、そううまくいかないのが人生です。生易しくはできていません。主は預言者ジョセフ・スミスを通じてこう言われました。「多くの^{かんなん}艱難の後に祝福は来る。それゆえ、あなたがたが大いなる栄光を冠として与えられる日が来る。」（教義と聖約 58：4）

永遠の家族の
教義について深く考え、
最も大切なものは
何なのかを
自ら理解してください。

神によって定められたもの

主はしっかりとした家族を育て、維持する方法を明示されました。わたしたちは皆、『家族——世界への宣言』に明記された原則を研究し、応用するように勧められています。加えて、家庭生活から個人的な力と幸福を引き出すには、犠牲と信仰が求められることを知っておく必要があります。

家族の宣言にはこうあります。「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」です。さらにこうも書かれています。「増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。」¹

多くの人が持つ家族のイメージと目的は劇的に変わってきています。いわゆる「運命の伴侶」との結婚を理想とする考え方が社会に入り込んでいて、子供が何を求め、何を感じるかよりも、大人が何を求め、何を感じるかを中心に考える人が増えています。その結果、多くの人が、妥当な婚約期間を経て結婚するのではなく、長い交際の末に重い腰を上げるのです。ぴったりな相手を見つけるため、最終的に結婚を決意する前に、結婚の恩恵のない同棲をしようまくいくかどうか試したり、詳細な婚前契約で補償されたぜいたくなライフスタイルを確保したりすることが、多くの人にとって常識になっています。

聖文と現代の預言者の教えは、こうした世の中の風潮とは異なります。わたしたちは、家庭を構え、子供を育てるために、純潔と貞節という土台の上に結婚生活を築きます。スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）はこう教えています。「結婚を否定するようなことを言ったり、書いたりする人が大勢います。教会の中にも結婚を遅らせたり、結婚に異議を唱えたりする人がいます。……わたしたちはすべての人に〔伝統的な〕結婚を真の幸福の基として受け入れるよう勧めます。……基本的に、結婚は子供を産み育てることを前提としているのです。」²

妻のクリスティアーナとわたしが若いころはこれが生ける預言者の言葉でしたから、わたしたちはその助言に信頼を置き、従いました。わたしたちはスイス・ベルン神殿の聖壇を挟んでひざまずきました。それぞれまだ20歳と22歳の時のことです。聖約にふさわしく生活してはいましたが、

将来どうなるのかまったく見当もつかず、仕事の経験もなく、まだ学生の身で、経済的にはとても貧しい状態でした。

豊かに持っていたのは、互いに対する愛、そしてあふれんばかりの純粋な情熱だけでした。それでも自分たちの世界を一緒に築き始めました。子供をもうけることを先送りしませんでした。そのため、支え合いながら学校に通う必要がありました。わたしたちは主の次の約束を心から信じまし

た。「神は、戒めを守るならばこの地で栄えると約束してくださっている。」（モーサヤ 2:22）

主はそのとおりにしてくださいました。結婚したとき、クリスティアーナは看護学校の学生でした。わたしたちのビジョンには、クリスティアーナが学校を卒業することも含まれていました。しかし、それと同時に、子供

を産み育てる夢も実現しようとあえて決意したのです。結果的に、クリスティアーナが最終試験に合格して認定看護師になったのは、最初の子供が生まれて2週間ほど後のことでした。

40年近くたった今、わたしたちは二人で家族を築けたことに感謝しています。死すべき世でわたしたちの王国を築くときに主がその御手で導いてくださるのを見てきたので、神を信じるわたしたちの信仰と夫婦の関係は不動のものとなりました。この王国は永遠に発展を続けます。

喜んで犠牲を払う

わたしたちは幸福になるというビジョンがあったので、喜んで犠牲を払う覚悟でいました。神が定められた「管理」し「提供」するという父親の役割と「子供を養い育てる」という母親の役割³を受け入れました。元中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は次のように述べています。「父親に与えられた神権の役割は、管理し、神権の儀式を次の世代に伝えることです。母親に与えられた神権の役割は、影響を及ぼすことです。どちらも欠かすことのできない、相互に補完し合い、依存し合う責任です。」⁴

夫婦間でも家族の中でも対等のパートナーとして助け合うことは、いつも同じことをしたり、すべてを一緒に、あるいは均等に行ったりすることではありません。わたしたちは家族に関する宣言で概説された神の計画によって夫と妻のそれ

ぞれに与えられた異なる役割を理解し、受け入れています。世の中で言われる「解放」、すなわち夫と妻の両方が自分の利益のために生きるという風潮には従っていません。福音の原則に従って生活しています。夫婦で補い合い、家族で一致し、思いやりを持つよう努力しています。

こう言う人がいるかもしれません。「そう言われても、わたしたちの置かれている状況は違います。今日の世界は理想的なものではありません。例外を設ける余地があってもよいはずです。」確かにそうですが、わたしは、皆さんにルールつまり神の理想を教え、人生の道を歩むときに例外的な状況に陥ったら自分で対処してもらおうとしているのです。

家族に関するビジョンの中に、クリスティーナが家で子供を育てるというのがありました。それは犠牲を意味しました。妊娠が分かって間もなく、クリスティーナはわたしに、結婚式の前に二人で決意したことを思い出すように言いました。子供が産まれたら即座に外で働くのをやめるという決意でした。わたしは新たに負うことになる責任を逃れようとして、クリスティーナが我が家の収入の3分の1を稼いでいることに触れました。妻はあっさりとうこう答えました。「わたしが子供の世話をしますから、あなたは生活費を稼いでください。」



彼女が正しいことは分かっていたからです。随分前にそのことについて話し合っていたからです。それは家庭生活に関するわたしたちのビジョンと一致していましたし、生ける預言者の言葉とも一致していました。また、それは正しいと感じていました。そのようなわけで、クリスティーナは収入の多い看護師の仕事を辞めて、子供に寄り添い、子供の日々の必要を満たしました。一方、わたしは家族を食べさせ、住まわせるために、一生懸命働かなければなりませんでした。主は、わたしたちのビジョンのこの側面を達成できるよう祝福してくださいました。

そのほかの重要な事柄、例えば、育児、教育、指導や助言、清掃、あるいはおむつ交換までも、状況が許すかぎり夫婦の共同作業としました。このように分担したのは、そうすることがわたしたちの思い描く家庭生活に常に不可欠だったからです。

クリスティーナとわたしは、信仰をもって行動し、主を信頼する過程で、わたしたちが主の方法で、主が最もよいと思われる時期に、御心を行えるよう、主が助けてきてくださったことに気づきました。さて、ここで言う主の方法とは、すべてが直ちにわたしたちの思いどおりに進むということではありません。忍耐しなければならないこと、特別に努力を払わ

なければならないこと、また主がわたしたちの真剣さを試しておられると思われることもありましたが、しかし、常にわたしたちのビジョンは励ましとなり、きわめて重要な決定を下す際の土台となってきました。

クリスティーナとわたしがいつも思い描いていたのは、いつの日か味わいたい永遠の喜びと栄光の予行演習として、子供たちと一緒に神殿の日の栄えの部屋に入ることでした。ここ数年の間に、わたしたちは子供を一人ずつ神殿に連れて行って神殿の儀式を受けさせました。象徴的な意味で、義にかかわる原則を教えた後、天の御父のもとに彼らをお返ししたのです。子供のうち3人が愛する人と結婚したときに



は、神殿の聖壇まで付き添いました。これからも、ほかの子供たちの神殿結婚があります。

家庭や子孫の中に見いだす喜びほど、人生に幸福と満足をもたらしてくれるものはほかにありません。こうしたことが永遠の進歩の始まりにすぎず、喜びと幸福のほんの最初の段階にすぎないと分かると、わたしたちは、家族の教義を実践し、抱いたビジョンがすべて実現するのを見るために、持っているものをすべて喜んで犠牲にしようと思いました。今でもその気持ちは変わりません。

永遠の家族の教義について深く考え、最も大切なものは何なのかを自ら理解するよう勧めます。この種の幸福は、人の存在の根幹を成します。そして、夫と妻、子供との間の心地よい関係から生まれる幸福感は常に増し加わります。

ビジョンを実行する

家族の教義を研究して幸福になるためのビジョンを作り上げたら、そのビジョンを真剣に実行しなければなりません。

婚前の交際中に、自分のビジョンが最初クリスティアーナに受け入れてもらえなかったのが、わたしは少しがっかりしま

した。教会のシングルアダルトとしていつまでも実り多い人生を送ろうと決心したばかりのある日、特別な御霊の導きを受けました。スイス神殿で儀式を受けていたときに、次のようなことを告げる声が心に聞こえたのです。「エリック、結婚し、新しくかつ永遠の聖約に入るために真剣に努力しなければ、これらの教えと約束の祝福はいずれも、あなたにとって何の意味も成さなくなりますよ。」21歳のときにわたしはこの警告を受けて目が覚め、以来、その祝福にふさわしくなろうとさらに努力しました。

自分のビジョンを達成するための個人の目標を設定するよう勧めます。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にはこうあります。「目標は、心の望みと達成可能なビジョンを反映するものです。心の望みは目標と計画を通して行動へと変わります。目標設定と計画は信仰に基づくものです。」⁵

神聖なものを軽んじないようにしてください。適齢期になったら、楽しむだけのデートはしないでください。神殿で最も大切な聖約を交わさなくなるようなことをして、永遠の生得権を台なしにしないでください。どの交際相手にも将来の永遠の伴侶であるかのように接するならば、その人を肉

体的または霊的に傷つけたり、ふさわしくない行いをして自分のビジョンを曇らせたりすることは決してないでしょう。常にふさわしくあるならば、霊的な感覚は鈍ることなく、いつも御霊のささやきを受けることができます。死ぬほどの恐怖を感じた場合ですら、聖霊はあなたを励まし、人生で下すこのような非常に大切な決定が正しいかどうかの確認を与えてくださいます。

自分のビジョンと目標に関して主に報告する責任があることを、自覚してください。悔い改めるべきことがあれば、一瞬たりともためらわずにそうしてください。この世の人生も永遠の命もともに大切ですから、「悔い改めの日を先に延ばす」わけにはいきません(アルマ13:27;34:33)。神に召された預言者の勧めに従ってください。この勧めです。「あなたがたが必要としているものは何でも、イエスの名によって御父に求めなさい。疑ってはならない。信じなさい。昔のようになり、心を尽くして主のもとに来て、主の前に恐れおののいて、自分の救いを達成しなさい。」(モルモン9:27)

境遇からやむを得ず、理想的な家族のビジョンを状況に合わせて変えなければならぬ人があることは認めます。しかし、信仰をもって行動し、可能なかぎり理想に近づこうとするときに主が助けてくださることを、わたしは学んできました。

完成の原則

イエス・キリストの福音にはきわめて慰めとなる要素が含まれています。それは主イエス・キリストを信じる信仰の**完成するあるいは完了する側面**です。モロナイは、「[わたしたち]の信仰の創始者であり完成者であるキリストの功德にだけ頼[り、]正しい道にとどまり続けるよう勧告しています(モロナイ6:4)。

イエス・キリストを信じる信仰があるので、わたしたちは自分の選ぶべき道を追い求めることができます。しかし、弱点があったり機会を逸したりしたためにつまずいても、主は手を差し伸べ、足りない部分を補い、わたしたちの信仰を完全なものにしてください。主はこう語られました。「主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」(教義と聖約137:9)

家庭や子孫の中に
見いだす喜びほど、
人生に幸福と満足も
もたらしてくれるものは
ほかにありません。

『手引き 第2部』にはこう記されています。「この世において永遠の結婚と親になる祝福を受けられない状況にある忠実な会員は、神と交わした聖約を守っているかぎり、約束されたすべての祝福を永遠という時の中で受ける。」⁶

「人がひとりでいるのは良くない」という主の言葉は文字どおりの意味であり(創世2:18)、神のすべての子供たちに対する主の究極的な望みは、その子供たちが「喜びに満たされ[る]」(モーセ7:67)ことであると証します。したがって、常に自分のビジョンを念頭に置くべきであり、「永遠の家族の中で生活する理想に向かって努力するべきである。これはふさわしい伴侶、愛にあふれる父親や母親になるために準備するという意味である。時としてこれらの祝福は来世まで成就しないこともあるが、究極の目標はあらゆる人にとって同じである。」⁷

生活状況は千差万別で、全世界の人の数だけあることは承知しています。文化や伝統、期待されるものは様々だということも承知しています。しかし、個々の生活状況がどうであれ、これらの教義と原則は永遠であり、真実です。よく祈り、これらの教義と原則について深く考えるとき、主に喜ばれ、最大の幸福に導く、自分の人生のビジョンを育むことができます。わたしはこのことを深く確信しています。■

2014年12月2日にブリガム・ヤング大学で行われたディボーションの説教「人生においてあなたはどのようなビジョンを思い描くか(What Do You Envision in Life?)」から。英語全文は speeches.byu.edu から御覧いただけます。

注

- 1.「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129
- 2.Spencer W. Kimball, "Guidelines to Carry Forth the Work of God in Cleanliness," *Ensign*, May 1974, 6
- 3.「家族——世界への宣言」129
- 4.2009年10月に行われた総大会訓練集会でジュリー・B・ベック姉妹が語った言葉
- 5.『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』146
- 6.『手引き 第2部——教会の管理運営』1.3.3
- 7.『手引き 第2部』1.3.3





第 2 章

彼に聞きなさい

これは、『聖徒たち——末日におけるイエス・キリスト教会の物語』という、4巻にわたる新しい教会歴史物語の第2章です。この物語は14の言語で、印刷物および「福音ライブラリー」アプリの「Church History (教会歴史)」の項、saints.lds.org/jpnで読めるようになります。これに続く数章は、第1巻が年内に公開されるまで、本機関誌に順次掲載される予定です。

18 20年のある春の朝、ジョセフは早起きをして自宅近くの森に向かいました。空は晴れて美しく、頭上の小枝から木漏れ日が射しています。一人で祈りたいと思っていたジョセフは、近ごろ木を採伐した森の中に、ある静かな場所を見つけていました。ジョセフは切り株に斧を打ち込み、そこに残しておいたのです。¹

その場所を見つけると、ジョセフは辺りを見回し、自分一人であることを確かめました。声に出して祈りたいと思ったため、邪魔をされなくなかったのです。

一人であることが分かると、ジョセフは冷たい地にひざまずき、心の望みを神に告げ始めました。憐れみと赦しを乞い、抱いている問いへの答えを見いだせるよう知恵を求めたのです。ジョセフは祈りました。「主よ、わたしはどの教会に加わればよいでしょうか。」²

祈るにつれ、ジョセフの舌は動きを制されていき、しまいには話せなくなってしまいました。背後に足音が聞こえるも、振り向くと姿はありません。再び祈ろうとしましたが、足音は大きくなる一方で、まるでだれかが近づいてくるかのようです。ジョセフは飛び上がり、急いで振り返ってみました。やはりだれもいません。³

突然、目に見えない力がジョセフを捕えました。もう一度口を開こうとするも、舌はやはり動きません。深い闇に取り

囲まれ、ついには陽の光が見えなくなりました。疑いと恐ろしい印象が脳裏をよぎり、ジョセフを戸惑いと混乱に陥れます。実在する、とてつもない力を持つ恐ろしい何者かが、自分を滅ぼそうとしているように感じたのです。⁴

ジョセフはすべての力を振り絞り、再び神を呼び求めました。舌を緩められたジョセフは救いを懇願しましたが、今や絶望し、耐え難い暗闇に打ち負かされ、破滅へ身を任せようとするばかりでした。⁵

その瞬間、光の柱が頭上に現れます。次第に降りて来るその光は、木々を燃え立たせたかのようでした。光が頭上にとどまると、ジョセフは見えない力から解き放たれ、代わりに神の御霊によって、平安と、たとえようもない喜びに満たされました。

目を凝らして光の中を見ると、父なる神が自分の上の空に立っておられるのを目にします。その御顔はジョセフがそれまでに見たどんなものにも勝るほどの輝きと栄光に満ちていました。神はジョセフの名を呼ばれ、隣におられた別の御方を指して、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」⁶と言われたのです。

ジョセフは、イエス・キリストの御顔を見つめました。それは御父と同じく、輝きと栄光に満ちたものでした。

救い主は言われます。「ジョセフ、あなたの罪は赦された。」⁷ 重荷を取り去られたジョセフは、もう一度尋ねました。「どの教会に加わればよいでしょうか。」⁸

「それらのどれにも加わってはならない」と救い主は語られました。「彼らは人の戒めを教義として教え、神を敬うさ

まをするけれども神の力を否定している。」

世は罪の状態にあり、「だれ一人善を行う者はいない」と告げられます。「彼らは福音から離れ、わたしの戒めを守らない。」そして、神聖な真理が失われたり腐敗したりしているが、将来ジョセフに完全な福音を明らかにすることを約束されたのです。⁹

救い主が語られると、ジョセフは真昼の太陽よりも明るく輝く光に囲まれた天使の群れを見ました。「見よ、見よ、わたしは御父の栄光をまもってすぐに来る」と主は言われます。¹⁰

ジョセフは、森がその輝きに飲み込まれてしまうのではないかと思いましたが、木々はモーセのしばのように、燃え尽きてしまうことはありませんでした。¹¹

光が去ると、ジョセフは自分が天を見上げて仰向けに横たわっているのに気づきました。光の柱は消え、罪の意識と疑問から解放されたジョセフの心には神の愛が満ちていました。¹² 父なる神とイエス・キリストが自分に語りかけてくださいました。真理を見いだし、赦しを得る方法を自ら学んだのです。

この示現のために、ジョセフは力を失って動くことができず、森の中で横になっていました。ある程度力を取り戻すと、どうにか家に帰り、暖炉に寄りかかりました。それを見た母親は、どうしたのかと尋ねます。

ジョセフは「大丈夫です。元気です」と言って母を安心させました。¹³

数日後、ある説教者と語らう中で、ジョセフは森での経験について話します。その説教者は当時の信仰復興運動を精力的に行っていたので、自分の見た示現を真剣に受けとめてくれるはずだとジョセフは思っていました。

はじめ、その説教者はジョセフの言葉を軽くあしらいました。天から示現を受けたと主張する人は時折いるものだというのです。¹⁴ そして怒り出し、むきになって、その話は悪魔から出ているとジョセフに言い放ちました。示現や啓示の時代は遠い昔に終わり、今後決してそのようなものはないと言います。¹⁵

ジョセフは驚き、自分の受けた示現のことを信じてくれる者はだれもいないであろうことをすぐに悟りました。¹⁶ どうして信じてくれないのでしょうか。ジョセフはほんの14歳で、教育もほとんど受けていません。家は貧しく、土地を耕し、片手間の仕事をしながら、一生の間、細々と生計を立てていくものだと思っていました。

しかし、ジョセフの証を聞いて相当な反感を持った人々がおり、彼らはジョセフをあざけたのです。世に何の痕跡も残さないようなただの少年がこれほどまでの憎しみとあざけりの対象になるとは、何とも不思議なことだとジョセフは思いました。「真実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか」と問いかけたい気持ちでした。「なぜ世の人々はわたしが実際に見たものを否定させようとするのか」と。

その後も、生涯にわたってジョセフはこの問いを抱き続けました。ジョセフは後にこう回想しています。「わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。」

そして、証しています。「わたしは知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定でき……なかった。」¹⁷

示現の話をして隣人から反感を買うだけだと分かったら、ジョセフは示現のことを自分の内にとどめるようになり、神が与えてくださった知識で満足していました。¹⁸ 後にニューヨークを出てから、ジョセフは森でのこの神聖な経験について記録しようと思いました。赦しへの切望、悔い改めを必要とするこの世への救い主の警告を書きつづりました。つたない言葉ながらも、あのとときの威光を何とか表そうと自分で記したのです。

何年か経って、筆紙に尽くし難いこの経験をさらにうまく表現できる筆記者の力を借り、ジョセフは公にその示現について詳しく述べました。真実の教会を見いだすという自分の抱いていた望みについてつづり、父なる神が最初に現れ、御子を紹介されたことを説明したのです。ジョセフは、自身が赦しを

求めたことよりも、万人に向けられた救い主の真理のメッセージと、福音を回復する必要性について、多くを書き残しました。¹⁹

ジョセフはその経験を記録するたびに、主が自分の祈りに耳を傾け、答えてくださったことを証しています。救い主の教会が地上に存在しないことを、ジョセフは若くして知りました。しかし主は、時が来れば主の福音についてさらに多くを明らかにすると約束されました。そこでジョセフは神を信じ、あの森で受けた命令を忠実に守り、さらなる導きを忍耐強く待とうと心に決めたのです。²⁰ ■

ジョセフは、自分が示現を受けたことを知っていました。父なる神とイエス・キリストがまばゆい光の中に御姿を現されたのです。



スミス家族の家の近くにも存在するこの森で、ジョセフはひざまずき、どの教会に加わるべきかを知るために祈りました。

引用元の文献の全リストは、saints.lds.org (英語) でご覧いただけます。「テーマ」という言葉が注釈にある場合は、追加情報がオンライン (saints.lds.org/jpn) に掲載されています。

注

1. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 14; Joseph Smith History, 1838–56, volume A-1, 3, in *JSP*, H1:212 (draft 2); Interview, Joseph Smith by David Nye White, Aug. 21, 1843, in [David Nye White], “The Prairies, Nauvoo, Joe Smith, the Temple, the Mormons, &c.,” *Pittsburgh Weekly Gazette*, Sept. 15, 1843, [3], available at josephsmithpapers.org
2. Interview, Joseph Smith by David Nye White, Aug. 21, 1843, in [David Nye White], “The Prairies, Nauvoo, Joe Smith, the Temple, the Mormons, &c.,” *Pittsburgh Weekly Gazette*, Sept. 15, 1843, [3], available at josephsmithpapers.org; Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:12
3. Joseph Smith, Journal, Nov. 9 – 11, 1835, in *JSP*, J1: 88
4. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 15; Hyde, Ein Ruf aus der Wüste, 15 – 16; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 3, in *JSP*, H1:212 (draft 2)
5. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 16; Joseph Smith, Journal, Nov. 9 – 11, 1835, in *JSP*, J1:88; Joseph Smith History, 1838–56, volume A-1, 3, in *JSP*, H1:212 (draft 2)
6. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 16 – 17; Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:12 – 13; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 3, in *JSP*, H1:214 (draft 2); Joseph Smith, Journal, Nov. 9 – 11, 1835, in *JSP*, J1:88
7. Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:13.
8. Interview, Joseph Smith by David Nye White, Aug. 21, 1843, in [David Nye White], “The Prairies, Nauvoo, Joe Smith, the Temple, the Mormons, &c.,” *Pittsburgh Weekly Gazette*, Sept. 15, 1843, [3], available at josephsmithpapers.org
9. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 5 – 26; Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:13; Levi Richards, Journal, June 11, 1843; Joseph Smith, “Church History,” *Times and Seasons*, Mar.1, 1842, 3:706, in *JSP*, H1:494
10. Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:13
11. Pratt, Interesting Account, 5, in *JSP*, H1:523
12. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 20; Interview, Joseph Smith by David Nye White, Aug. 21, 1843, in [David Nye White], “The Prairies, Nauvoo, Joe Smith, the Temple, the Mormons, &c.,” *Pittsburgh Weekly Gazette*, Sept. 15, 1843, [3], available at josephsmithpapers.org; Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:13
13. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 20; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 3, in *JSP*, H1:214 (draft 2)
14. See Bushman, “Visionary World of Joseph Smith,” 183 – 204
15. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 21; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 3, in *JSP*, H1:216 (draft 2); Neibaur, Journal, May 24, 1844, available at josephsmithpapers.org
テーマ: ジョセフ・スミスの時代のキリスト教の教会
16. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 22, 27; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 4, in *JSP*, H1: 216 – 18 (draft 2); Interview, Joseph Smith by David Nye White, Aug.21, 1843, in [David Nye White], “The Prairies, Nauvoo, Joe Smith, the Temple, the Mormons, c.,” *Pittsburgh Weekly Gazette*, Sept.15, 1843, [3], josephsmithpapers.org で閲覧可能
17. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 21 – 25; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 4, in *JSP*, H1:216 – 18 (draft 2)
18. Joseph Smith History, circa Summer 1832, 3, in *JSP*, H1:13; see also Historical Introduction to Joseph Smith History, circa Summer 1832, in *JSP*, H1:6
19. ジョセフは、生涯でこの経験に関する4つの記録を自身で書いたか、ほかの人の執筆を監督した。最初の記録は Joseph Smith History, circa Summer 1832, 1 – 3, in *JSP*, H1: 11 – 13 から閲覧可能。この経験についてジョセフが語るのを聞いた別の5人も、それぞれの記録を書き記した。9つの記録は “Primary Accounts of Joseph Smith’s First Vision of Deity,” Joseph Smith Papers website, josephsmithpapers.org で閲覧可能。
各記録の類似点および相違点に関する分析は、「最初の示現の記録」, 福音のテーマ (www.lds.org/topics?lang=jpn&old=true) 参照。テーマ: ジョセフ・スミス — 最初の示現の記録
20. ジョセフ・スミス — 歴史 1 : 26; Joseph Smith History, 1838 – 56, volume A-1, 4, in *JSP*, H1:218 (draft2)



クリスチャンが祖父の日記を見つけたとき、それが彼とその家族にとって非常に大きな意味を持つことになるとは思いませんでした。
写真撮影、コディー・ベル

クリスチャン・カールソン

ノルウェー、ブスケル

母は古い写真の入った箱をわたしにくれました。驚いたことに、その箱に祖父の日記が入っていました。日記の記述の多くは短く簡潔なもので、ガソリン、バナナ、魚などの値段といった、簡単なものもありました。

すばらしいことに、祖父は日記とともに、教会で話した話を注意深く記録に残していました。

書き残された話の中で、祖父は自分の考えや感じていること、そして求道者として教会について学んでいたときに直面した問題などについて述べていました。祖父は教会に入ることについて祈るために、謙遜にならなければなりませんでした。祖父は答えを受け、それに従って行動しました。

祖父が自分で書いた記録を妻や子供と分かち合うのはすばらしい経験です。わたしの家族は一度も祖父に会ったことはありませんが、祖父の言葉は死後 30 年たった今も家族に影響を与えています。

さらに知るために

クリスチャンの信仰の旅路について、詳しくは、liahona.lds.org をご覧ください。

信仰に関する記事は、ほかに LDS.org のメディアライブラリーでご覧になれます。

あなたの家族の思い出や写真を保存する方法については、FamilySearch.org をご覧ください。

先祖を探し、真理を見いだす

わたしは自分のイタリアの先祖について知りたいと思い、数年前に系図を調べ始めました。先祖を見つけるために毎日欠かさず何らかの調べ物をしました。しばらくすると、イタリアで生まれた5代前の祖父の出生記録を見つけました。彼の記録を見つけたことでわたしは深く感動し、先祖を探し続けるべきだと強く感じました。

探し続けると、聞いたこともない先祖がたくさん見つかりました。また、ソーシャルメディアを通じてイングリッド・ザニーニという若い女性と知り合いました。同じ名字だったので、きっと何らかの血のつながりがあるのだろうとわたしたちはうすうす感じていました。イングリッドと話していたとき、彼女が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると教えてくれました。彼女は教会について話し、モルモン書を送ってくれると言いました。モルモン書が届くと、わたしはすぐに読み始めました。

ある日、職場にモルモン書を持って行くと、エリカという若い女性がそれに気づきました。彼女の表情を決して忘れられません。とてもうれしそうで、胸を躍らせていました。エリカはわたしにモルモン書は面白いかと尋ね、彼女と弟と一緒に

イタリア人である5代前の祖父の出生記録を見つけたことでわたしは深く感動し、先祖を探し続けました。調べ続けるうちに、さらにすばらしい発見をしました。



に教会に行ってみたいと思うかと聞きました。モルモン書を受け取ってから2週間後、わたしは初めて教会に行きました。

その日の日曜学校のレッスンは、死者のためのバプテスマと家族歴史の大切さについてでした。わたしは強い興味を覚えました。その後宣教師を紹介され、その日の午後

ステークセンターで開かれた家族歴史の集会に出席しました。教会について学んでいたとき、先祖が近くにいるのを感じ、もっと学ぶように促されている気がしました。

宣教師からバプテスマを受けるように勧められたとき、わたしはどうしたものかと考えて家族歴史を始めてから起こった一連の出来事について思い返しました。福音を紹介され、家族歴史の永遠の大切さについて学んだことはただの偶然だったはずがありません。わたしは宣教師の勧めを受け入れてバプテスマを受けることにしました。

今でも家族歴史に取り組んでいます。イエス・キリストの福音を見いだしたことで、先祖を探すわたしの働きにより、先祖が永遠の祝福を受けられることを知って感謝しています。■

ユリ・シケイラ・ザニーニ
(ブラジル、リオデジャネイロ)

アナに手を差し伸べる

何年か前に、わたしは初等協会で6歳児のクラスを教えました。名簿に載っている生徒の一人にアナがいました。わたしはアナの家族をよく知っていて、両親が別居し、アナが父親と住んでいることを知っていました。彼らはほとんど教会に来ませんでした。

わたしはアナと父親に会ってアナを初等協会に誘うために、彼らの家に立ち寄りました。アナは興味を持ったように見えたのですが、一度も来ませんでした。わたしは何週間もの間、毎週日曜日の朝、初等協会に誘うためにアナの家に電話しましたが、だれも電話に出ませんでした。わたしはいつもメッセージを残し、初等協会でアナに会えたらうれしいと伝えました。

ある日曜日の朝、アナが教会に来ました。父親に助けってもらって安息日の服装に着替えて初等協会に行く準備をし、教会まで送ってもらったのでした。わたしは彼女に会えてうれしかったので歓迎し、同じクラスの子供たちと知り合えるように助けました。

レッスンをして、歌を歌い、クラスの最後には塗り絵をしました。子供たちが部屋を出て行くとき、アナはわたしのところへ来て、わたしの手の中に、丸めた紙を落としました。わたしは、初めはごみだと思いました。ごみ箱に捨てようと思いましたが、開いてみるよう御霊に促されました。アナはその紙にわたしあてのメッセージを書いていました。6歳児の手書きの文字で、「だいすき」と書かれていました。

アナはわたしのことを好きになるほ

どわたしを知りませんでした。彼女がわたしについて知っていることといえば、留守番電話に残された、初等協会に誘うわたしの声くらいでした。しかし、彼女に近づきたいという一心で行った小さな努力により、アナはだれかが自分に関心を寄せ、救い主の愛を感じるのを助けたいと思っているということを知ったのです。

アナはその紙にわたしあてのメッセージを

書いていました。6歳児の手書きの文字で、「だいすき」と書かれていました。

アナは時折初等協会に来るようになり、父親も時々教会に来るようになりました。しかし、家族の状況が再び変わってからは以前ほど会えなくなりました。

わたしはここ何年も、アナについて考えてきました。彼女が初等協会で過ごした時間を覚えていてほしいと心の底から願っています。彼女は当時学んだことの一部を覚えているかもしれませんが、何よりも主の愛や御霊の慰め、教師の愛を感じたことを覚えていてくれることを切に願っています。■

マーガレット・S・リファース
(アメリカ合衆国, ユタ州)



神はわたしのことをお忘れになったのでしょうか

あらゆる場所を捜したのです。軍事施設に送るクレーンの完成に必要な部品を捜して、オフィスから作業場まで車で2往復しました。契約した期限にぎりぎり間に合うように、あと2日で発送する予定でした。間に合わない場合、会社には重い罰金が科せられます。

わたしはオフィスの保管室に入ると、見当たらない部品を再び捜しました。すべての箱の中身を確認しましたし、部品をちゃんと注文したことも確認しました。再注文しても、期限には間に合いません。わたしは途方に暮れました。帰宅してからも、どうやったらこの問題を解決できるのかと考え続けていました。

寝る前に心のこもらない祈りを短くささげ、ちょっとでも眠ろうとしまし

た。何か思い出せることはないかと、頭の中でその日一日の行動を振り返りました。眠れないまま何度も寝返りを打っていると、夜中の3時になっていました。

しかたなく起き上がると、祈りを忘れないようにと床に置いたクッションを見下ろしました。祈る気分ではありませんでした。一日中祈っていたのに、何も変わる気配がなかったのですから。神はわたしのことをお忘れになったのでしょうか。

すがれるものがほかになく、わたしは床にひざまずくと祈り始めました。

わたしの状況を御存じかどうか、天の御父に問いかけました。「天のお父様、見つからない部品がどこにあるのか、お父様は御存じです。今日は、わたしにも教えていただけないでしょうか」と懇願しました。

その朝、わたしは歩いてオフィスまで行きました。ブリーフケースを机に置くと、保管室をもう一度だけ確認すべきだと感じました。保管室に入り、前日に何度も確認した箱を再度見渡してみました。すると、大きな箱が目にとまりました。何かがおかしいのです。

保管室にあるすべての箱を確認しても、なくした部品は見つかりませんでした。どうすればこの問題が解決して期日に間に合うのか、分かりませんでした。



注意深く見てみると、その箱は一つではなく、二つが重なっていました。上の箱を引っ張り上げてみると、下の箱に捜していた部品があったのです！わたしは感謝の祈りをささげるとオフィスに戻り、製造担当の人たちに行方不明になっていた部品が見つかったことを伝えました。

すると突然分かりました。わたしはただ部品を見つけたのではなく、天の御父がわたしの状況を御存じであり、わたしを大切に思ってくださっていることにも気づけたのです。神はわたしのことをお忘れになっていませんでしたし、これからもお忘れになることは決してないでしょう。■

エドウィン・F・スミス (アメリカ合衆国, ユタ州)

かなえられた夢

わたしは中国の香港で生まれました。若いとき、自然に囲まれた美しい国に住むことを夢見ました。

大人になって結婚した後、夫とわたしはオーストラリアに移り住みました。彼は腕の立つ整備士で、就労ビザを取得できたので、わたしたちは4年間

オーストラリアに住むことができました。二人とも仕事に就いたとき、ビザの有効期間がさらに4年延長されました。

この間に永住権を得る申請をするために、自分たちの状況を改善しようと努めました。英語の授業に充てるお金はありませんでしたが、同じワードの兄弟姉妹が学習を手伝ってくれました。それでも、8年がたったときには、オーストラリアを離れなければならないように思えました。わたしたちはとどまる方法を見つけるために断食し、祈りました。ワードの会員たちも断食し、祈ってくれました。

しかし、状況は絶望的に見えました。わたしたちは荷造りをし、香港に戻る計画を立て始めました。すると、ある夜、友人が電話をかけてきて、わたしたちのビザについて尋ねました。状況を説明すると、その友人は助けくれそうな移民仲介業者を知っているとしました。

翌日、仲介業者を訪ねると、不安はすぐに和らぎました。別の種類のビザで期間を延長する書類を提出するとのことでした。その永住ビ

ザを取得するためには、シドニーの郊外に引っ越すことが必要となりました。

わたしたちはシドニーから1時間半ほど北へ行った町に引っ越しました。オーストラリアの豊かな緑に囲まれた教会堂の近くに家を見つけ、新しい家とワードが大好きになりました。

間もなく、一時的なビザが下りました。夫とわたしは祈り続け、夫は6か月間、毎週日曜日に断食をしました。わたしたちは毎日聖典を読み、毎週神殿に参入しました。

ある日、移民仲介業者から電話がかかってきて、シドニーの移民事務所に行きパスポートを提出する必要があるとのことでした。パスポートが戻って来たとき、永住を許可するスタンプが押されていました。わたしたちはこの祝福に対し、天の御父に感謝しました。祈りがこたえられるという信仰を持った結果、そうになりました。そして、自然に囲まれた国に住むというわたしの夢がかなったのです。■

バレンシア・ハン
(オーストラリア, ニューサウスウェールズ州)

大陸の端から端まで： 神殿への旅

編集者注：この話は、この世においても永遠にわたっても結び固められるために、ある若い夫婦がどのような犠牲を払ったかを伝えています。この話に触発されて、皆さんが神殿結婚を生活の中で最優先するようになれば幸いです。

エフライン・ロドリゲス

19 79年10月、妻のマリア・オンディーナとわたしは、民事結婚をした翌日に旅立ちました。結び固めを受けるために、太平洋岸に近い故郷のペルー、アレキパをたち、大西洋岸にあるブラジル・サンパウロ神殿に向かったのです。わたしたちは、奉献されたばかりの南アメリカ初の神殿で結び固めを受

けるために、アレキパから陸路でこの神殿に向かった最初の夫婦でした。10日で往復する予定でしたが、政情不安のために、結局30日前後かかってしまいました。わたしにはどうなるか分かりませんでした。唯一分かっていたのは、伝道を終えたらふさわしい女性と神殿で結び固めを受けると神に約束していたということだけでした。

アレキパからフリアカ、そしてブーノへ

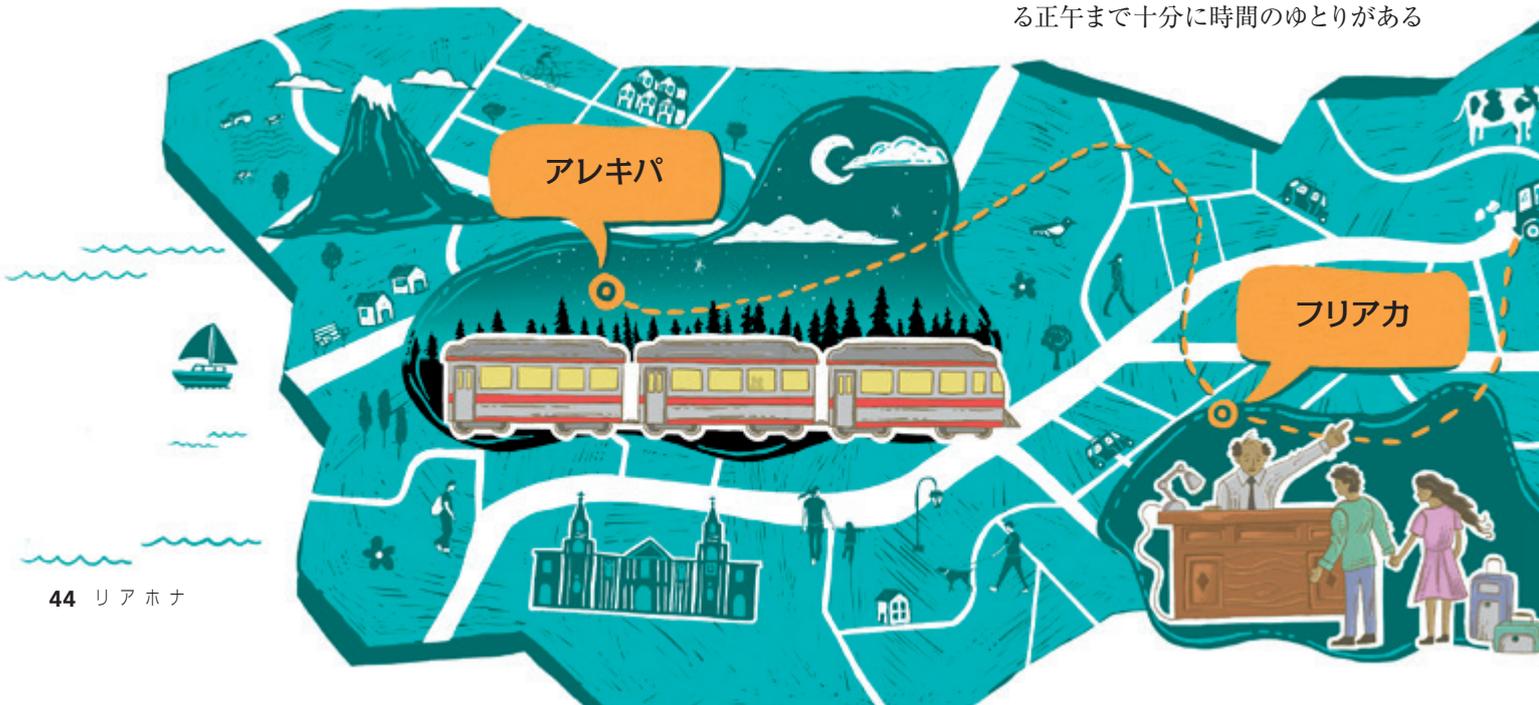
わたしたちは夜行列車で9時間行き、ペルーのフリアカに到着しました。もう木曜日だというのに、必要なスタンプがパスポートに押されておらず、出国許可が下りていないため、出国できないでいました。翌日が国民の祝日

あまりお金もなく、これから始まる旅が危険に満ちているにもかかわらず、妻とわたしは神殿で結び固めを受けなければならないことを知っていました。

で、そのまま週末まで役所が閉まるため、わたしたちはすべての窓口が閉まる正午まで十分に時間のゆとりがある

アレキパ

フリアカ



を投げつけ、バリケードを作って交通を遮断しようとしています。バスは走り続け、間もなく町の中心部に着きました。その夜、ボリビアで革命が起こっていたのです。

わたしたちはバスを降りると、ホテルを探し始めました。見つかった唯一のホテルは料金がとても高かったのですが、そこで働く、人のよさそうな男性に、またあの言葉を使い事情を説明すると、ホテルのクリーニング用品置き場にとても安い値段で宿泊させてくれました。床にマットレスを敷き、毛布をくれたので、わたしたちは、寒さと、一晩中響きわたる銃声に悩まされずにすみました。

わたしたちは翌朝早く、びくびくしながら急いでホテルを出ました。バス停に行く道すがら、戦車に援護された兵士が、革命勢力に向かってライフル銃を撃っているのが見えました。

燃料不足のため、普段は日に3便あるバスが、1便しか運行されませんでした。その切符も数日前に売り切れていました。わたしはマネージャー

を見つけると、これまでの人たちに言ってきたあの言葉をまた言いました。「わたしはモルモンです。ブラジルのサンパウロにある神殿で結婚するんです。助けてください。」「どこまで行くのですか」と聞かれたので、「コチャバンバです」と答えました。マネージャーは引き出しを開けると、切符を2枚取り出しました。引き出しにあったのはそれだけでした。「急ぎなさい。バスが出ますよ。」わたしたちはスーツケースの重さも忘れ、宙に浮くほど軽い足取りで乗り込みました。その日受けた祝福は、両手にあり余るほどでした。

コチャバンバからサンタクルスへ

到着したコチャバンバは革命の影がさらに色濃く、混乱の真ただ中でした。テントが一面に張られた市場を見つけました。そこにいた親切な同郷のペルー人が手や顔を洗わせてくれ、わたしたちがバスターミナルに行っている間、スーツケースを預かってくれました。あの同じ言葉でお願いす

ると、別のバスに乗る順番も取れて、数日後にはブラジルとの国境線に近いボリビアのサンタクルスに到着しました。3日間、毎朝駅に行って列車が出るかどうか尋ねましたが、「ない」という答えしか返ってきませんでした。ところが、4日目になると、ブラジル行きの列車が間もなく出発するというわさが聞こえてきたのです。

この時点で、わたしたちの所持金は底を突きそうでした。そのことを妻に打ち明けると、妻はきっぱりとこう答えました。「徒歩でも、ロバの背に乗ってでも、行くのよ。」それを聞いて、わたしは幸せな気持ちになりました。旅の残りを賄うお金については心配しませんでした。わたしたちの確信が信仰に基づいていたからです。

妻と話していると、年配の女性が近づいてきて、妻の前に立ち止まり、こう言いました。「若奥様、今日の電車の切符が2枚あるんですけど、ご入り用ですか。」妻は、その女性の手からもぎ取るように切符を受け取りました。わたしが代金を払うと、その年配の女





あらゆる犠牲を払う価値

「神殿のもたらす永遠の祝福を理解している人は、これらの祝福を受けるためにいかなる犠牲、いかなる代価、いかなる苦勞もいといません。どこまでも旅をして、あらゆる障害を克服し、どれほどつらいことにも彼らは耐えます。いつの日か永遠の家族として天の御父のみもとに戻れるようにし〔てくれる〕……神殿の救いの儀式には、あらゆる犠牲と努力を注ぐ価値があることを彼らは知っています。」

トーマス・S・モンソン大管長（1927－2018年）
「聖なる神殿——世界に輝くかり火」
『リアホナ』2011年5月号, 92

性は人ごみの中に消えました。主と主の天使がそのときもわたしたちの側にいてくださったことに、すぐに気がつきました。

サンタクルスからサンパウロへ

列車で友達になった人が最後に神殿まで車で送ってくれたおかげで、ついにサンパウロ神殿に到着しました。しかし、宿泊施設はすでに閉まっていました。仕方がないと思いつつも幸せで、わたしたちは神殿の外にあるベンチでくつろぎました。神殿です。夢に描いていたとおりの美しさで、塔の先端にはモロナイ像がありました。夜は更けていました。わたしたちは抱き合って泣きました。疲れていましたし、降りしきる雨でびしょぬれでした。ぬれていることも、空腹も、寒さも気になりませんでした。主の宮のこんなにも近くに来られたことに、言い表せない幸せを感じていたからです。わたしたちは主に従い、その報いを受けていました。

感激に浸っていると、わたしの肩をたたく人がいます。伝道中にわたしの同僚だった兄弟でした。その日に神殿で結び固めを受け、新婦との夕食を終えて帰るところだったのです。この兄弟は、その晩わたしたちを自分のアパートに泊めてくれました。そして、神殿会長自らが行ってくれた翌日のわたしたちの結び固めでは、証人になってくれたのです。日の栄えの部屋で見た真っ白な衣装の妻は、何と美しかったことでしょう。

伝道時代の友人からお金を借り、神殿会長の援助を受けて、帰り道は何の遅れもなく5日とかかりませんでした。そして、たった20ドルの所持金で、永遠の伴侶である妻マリア・オンディーナとの生活を始めたのです。■
筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



母の心に 福音の種を植える

ソニア・パディーヤ・ロメロ

わたしは14歳のときに教会に入りました。両親はバプテスマを受けるのを許してくれましたが、どちらも教会に入るところか、教会について学ぶことにも興味がありませんでした。

わたしは10年以上もの間、イエスキリストの回復された福音によって感じる幸福を家族にも味わってほしいと切に願っていました。宣教師や会員を夕食に招待し、家族は宣教師のレッスンを何度も受けましたが、何も変わりませんでした。その10年間、わたしは家族から何の支援もない状態で教会に行き、エンダウメントを受け、専任宣教師として奉仕しました。

アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティのテンプルスクウェアでの伝道を終えた後、わたしはメキシコに帰国し、母と一緒に住みました。(両親はわたしが高校生のときに離婚しました。)わたしはメキシコ宣教師訓練センターで働き始めたので、知恵を働かせて、わた

しが教えている長老や姉妹に会いに来るように母を誘いました。また、巧みに(あまり巧みでないときもありましたが)わたしのワードで奉仕している宣教師を、母とわたしと一緒に夕食を食べに来ないかと招待しました。わたしは母が福音についていろいろ聞き始めるのではないかと、宣教師と接する機会を作るためにあらゆる手を尽くしましたが、まったく効果がないように思えました。

母は、3年間にわたしが知り合ったすべての宣教師と顔見知りになったと思いますが、それでも何も起こりませんでした。

2008年に、わたしは看護学の学位を取得するため、アメリカ合衆国に留学しました。その年の終わりごろ、大規模な改修工事を終えたメキシコ・メキシコシティ神殿のオープンハウスが行われました。わたしは母に、機会を逃さないうちに神殿がどういうところか見に行くように懸命に誘いました。わたしの必死の説得の末、母は約113キロの道のりを車で移動してオープンハ

母に
教会について教えるために
思いつくことは
何でもしてきましたが、
母の心を変える
きっかけとなったのは
神殿の
オープンハウスでした。

ウスに行くことに同意しました。

その後母と話したとき、母はほんとうにすばらしい経験をした、と興奮しながら話しました。そして、もう一度行きたいと言っていました。実のところ、オープンハウスの残りの期間、母は何度も神殿に行くことができ、神殿が再奉獻される前の文化の祭典にも出席しました。*

その次に電話で話したとき、母は宣教師を招待してレッスンを教えてもらうつもりだと言いました。母はどこからともなくいろいろな質問が湧いてくる様子で、わたしが長い間願っていた方法で耳を傾けていました。学校の冬休みで、クリスマスの時期に帰宅すると、母に変化があったことに気づきました。いつも優しく、思いやりのある母でしたが、心の奥に大きな変化、すなわち改心が起きたのでした。

わたしは一連の出来事に驚きを覚えながら学校に戻りました。1週間後、母が電話をかけてきて、こう言いました。「ソニア、次にメキシコに帰って来るのはいつか教えて。母さん、バプテスマを受けるわ。」

わたしはほんとうに感激し、心からうれしく思いました。2月に、わたしは母のバプテスマのために帰国しました。母が教会に出席し、召しを受け入れて奉仕し、福音の中で成長する姿を見ることは驚くべき経験でした。福音が真実であることを母が知っていると思いました。

母の祈りは力強いものでした。特に、わたしがアメリカに戻る直前、わたしやわたしの安全のために母が祈るのを聞いて、深く感動しました。子供のために祈る親の祈りに勝るものはありません。

どうしてもっと早く実現しなかったのでしょうか。理由は分かりませんが、母は福音を受け入れる前に、生活の中で種を植えてもらう必要があったのかもしれませんが、以前のわたしにできなかった方法やタイミングで、神殿が母の心を

動かしたのかもしれませんが。主の御手が母の人生に及ぶ様子を見て、わたし自身の生活に主の御手を見たときのことを思い出しました。また、わたしのほかの家族の人生においても主がどんなことをおできになるかと考えると、大きな希望を感じます。

主がわたしたちを知っておられ、人生において導いてくださることを知っています。主の導きに従って人生を歩むなら、正しい場所にたどり着くことができます。自分の思いに従うと、時間がかかり、たいいていの場合、物事が難しくなります。わたしは主がされることに驚きを覚え、主がどれほどすばらしいことを備えておられるか見せていただくほうが好きです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

*メキシコ・メキシコシティ神殿は2008年11月16日にトーマス・S・モンソン大管長によって再奉獻され、2度目の大改修を経て2015年9月15日にヘンリー・B・アイリング管長によってもう一度再奉獻されました。



聖なる神殿の祝福

「皆さん自身を含むそれぞれの宣教師の経験が、聖なる神殿の祝福から始まり、神殿の祝福で終わるように勧めます。皆さんにより、皆さんを通して、神殿がキリストの群れに加わるすべての人の集合の場所となることでしょう。」

ジェラルド・コセービショップ
管理ビショップ

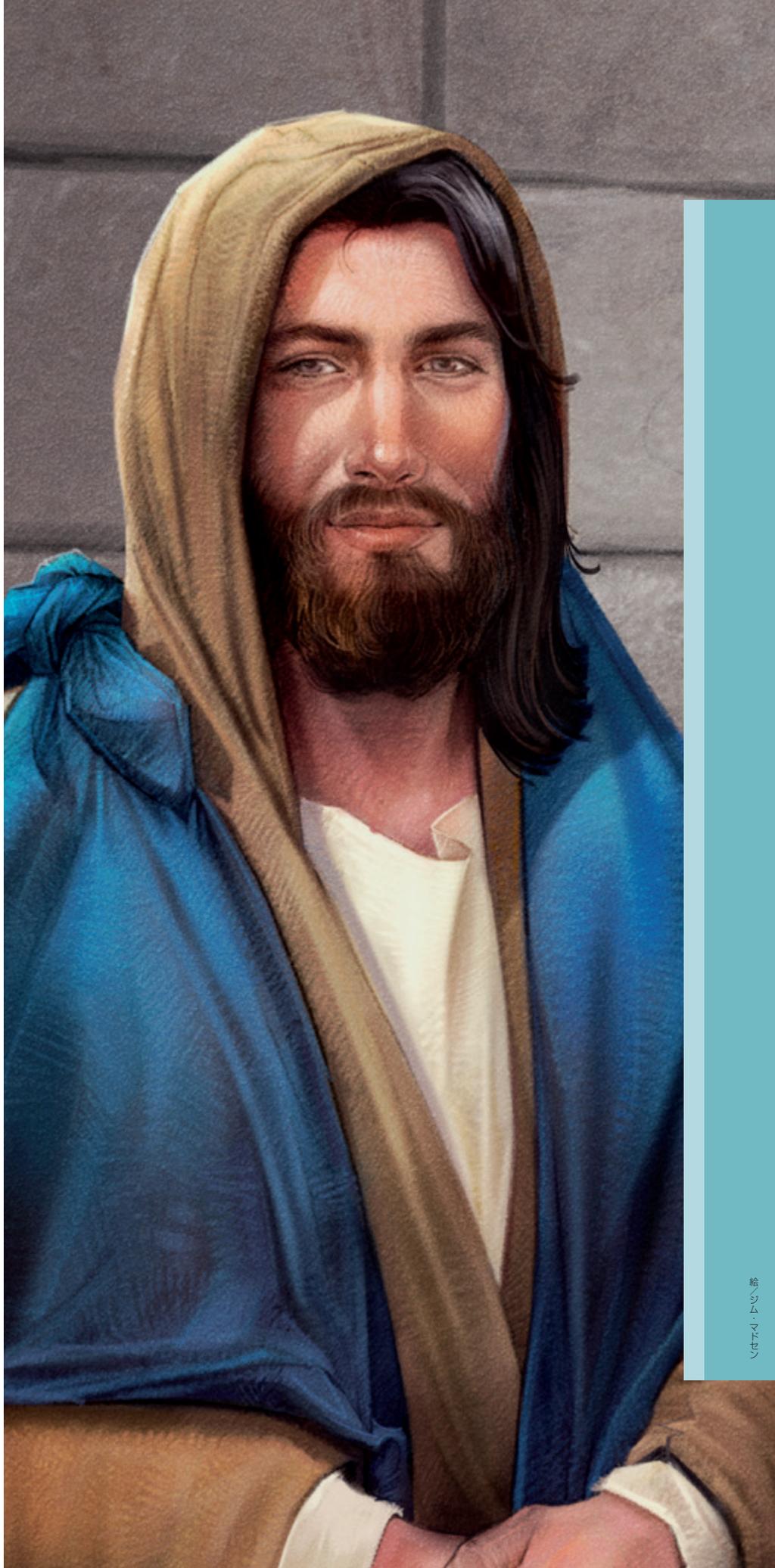
新任伝道部長セミナー、2015年6月27日





イエスは キリスト であられる

—— 末日の
預言者の証



前世

主イエス・キリストはこう招いておられます。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約 19:23) 皆さんも知っているように、この聖句は今年のミューチャルのテーマ聖句です。自分がどのように主に学び、主の言葉を聴くことができるか考えてみましたか。

主に学ぶ方法の一つは、教会の大管長から学ぶ方法です。キリストの特別な証人として召されている末日の預言者は、これまでも証をしてきましたが、引き続き天の御父の永遠の計画における、前世と現世、そして来るべき世での救い主の神聖な役割について証をしています。



「わたしたちは次のことを知っています。救いはキリストの内にあります。キリストは永遠の御父の長子であられました。無限にして永遠の贖罪を成し遂げるために、天の会議で選ばれ予任されました。神の御子として世にお生まれになりました。そして、福音を通して命と不死不滅を明らかにされました。」¹

第10代大管長
ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876 - 1972年)



「神の御子は……様々な世界を創造し、それを治める力を持っておられました。救い主は使命を果たして、……すべての人々に救いをもたらすために、独り子として地上に來られました。救い主は御自身の命をささげることにより、復活への道を開き、またわたしたちが永遠の命を得るために従うべき道を教えられたのです。」²

第11代大管長
ハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973年)



「イエス・キリストは、昔も今も、『全能の主』であられます。(モーサヤ 3:5 参照) イエスはお生まれになる前から選ばれた御方です。天地を創造された偉大なる創造主であられます。そしてすべてに命と光を与える源であられるのです。」³

第13代大管長
エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994年)

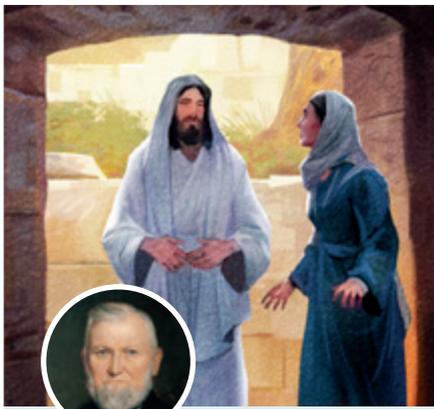


主はわたしたちの贖い主である

「わたしは特別な証人として、心を込め、熱い思いを尽くして、神が生きておられることを高らかに証し、宣言します。イエスは神の御子であり、肉における御父の独り子です。御子はわたしたちの贖い主であり、御父と人との間の仲保者です。主はわたしたちが完全には理解できないほどの愛をもってわたしたちを愛しておられます。主はわたしたちを愛しておられるので、わたしたちのために命をささげられました。わたしは言葉に表せないほどの感謝を主に感じています。」¹¹

第16代大管長 トーマス・S・モンソン大管長（1927 - 2018年）

現世



「キリストが地上に来られた目的は人類を永遠の死から贖うために御自身を犠牲としてささげることです。」⁴

主イエス・キリストのほかに、御父の指示を受け、人を救って永遠の命を与える力を持つ御方はいません。」⁴

第4代大管長
ウィルフォード・ウッドラフ大管長
(1807 - 1898年)



「イエスは世の贖い主であり、すべての人の救い主であられます。……

御子はわたしたちに神の特質を教え、また模範と訓戒によって、わたしたちが主のみもとに戻るために従うべき道を示すためにこの世に来られました。そして、すべての人が縛られている死の縄目を解き、死と死のとげが勝利にのまれる復活を可能にするためでした。」⁵

第7代大管長
ヒーバー・J・グラント大管長
(1856 - 1945年)



「イエス・キリストはこの世のだけよりも人類に大きな影響を及ぼした御方です。……

……主は病める人を癒し、盲人の目を開け、悪霊を追い出し、死者をよみがえらせ、虐げられている者に慰めを与えられました。また、愛の福音についての良きおとずれを人々に宣べ伝え、御父について証を述べ、永遠の救いの計画を教え、人に救いをもたらすために設けられた組織、すなわちキリストの教会の基を据えられたのです。」⁶

第12代大管長
スペンサー・W・キンボール大管長
(1895 - 1985年)

来たるべき世

「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストに立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教にかかわるほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」⁷

初代大管長 ジョセフ・スミス大管長 (1805 - 1844 年)

「主は死と地獄と墓に打ち勝ち、神の子、まことの永遠の父、メシヤ、平和の君、贖い主、世の救い主として勝利を収められました。……あらゆる事柄に勝利を収め、永久に神の右手に立つ御方となられたのです。」⁸

第3代大管長 ジョン・テラー大管長 (1808 - 1887 年)

「わたしは、イエスがキリストであり、世の救い主であることを、厳粛に、また感謝を込めて証します。イエスは確かにわたしたちの信仰の中心であり、幸福の鍵となる御方です。あらゆる方法で、また生活のあらゆる場面で、神の御子に従いましょう。主をわたしたちの模範とし、導き手としましょう。」⁹

第14代大管長 ハワード・W・ハンター大管長 (1907 - 1995 年)

「わたしの救い主であり、贖い主によってもたらされた贖いへの感謝の気持ちは、とても感謝しきれるものではありません。救い主はその完全な生涯の頂点において御自身を犠牲としてささげられました。筆舌に尽くし難い苦しみを伴ったその犠牲は、死の縄目を解き、万人の復活を可能にしました。そしてさらに、神の真理を受け入れ、その教えに従うすべての人々に日の栄えの世界の扉が開かれたのです。」¹⁰ ■

第15代大管長 ゴードン・B・ヒンクレー大管長 (1910 - 2008 年)



注

1. Joseph Fielding Smith, "Out of the Darkness," Ensign, June 1971, 2 (capitalization standardized).
2. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』, 18 参照
3. エズラ・タフト・ベンソン「イエス・キリスト——救い主、贖い主」『聖徒の道』1984年1月号, 9 参照
4. 『歴代大管長の教え——ウィル

フォード・ウッドラフ』69, 74

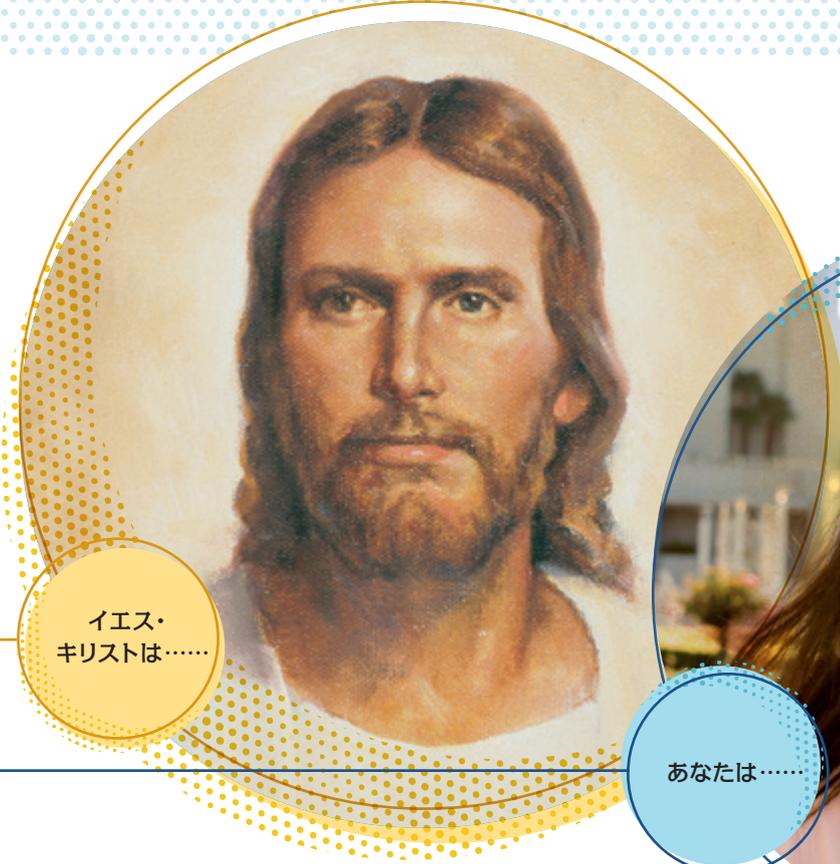
5. 『歴代預言者の教え——ヒーバー・J・グラント』223, 224 参照
6. スペンサー・W・キンボール「生命と救いに至るまことの道」『聖徒の道』1978年10月号, 6
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』49 - 50
8. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』44

9. ハワード・W・ハンター「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号, 97 参照
10. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしの証」『リアホナ』1994年1月号, 61 参照
11. トーマス・S・モンソン「過去を振り返り、前進する」『リアホナ』2008年5月号, 90 参照

聖書に記された神の御子の御姿を模写し、聖徒の道に収録された。この御姿は、神の御子の御姿を模写し、聖徒の道に収録された。この御姿は、神の御子の御姿を模写し、聖徒の道に収録された。

イエス・キリスト

についての事実,



イエス・キリストは……



あなたは……

<p>「世界が存在する前に〔いた〕。」 (教義と聖約 93:7)</p>	<p>「ますます成長して強くな〔った〕。」 (ルカ 2:40)</p>	<p>「知恵に満ち……」</p>	<p>背たけも伸び</p>	<p>神から愛され……</p>	<p>人から愛され〔る〕。」 (ルカ 2:52)</p>	<p>「恵みに恵みを受け続け、ついに完全を受けられた。」 (教義と聖約 93:13)</p>
<p>「初めに父とともに〔いた〕。」 (教義と聖約 93:23)</p>	<p>福音の原則を学び、実践することにより、〔霊においても〕強くなっている。</p>	<p>教育や良い選び、経験を通して知恵を増している。</p>	<p>体も成長している。</p>	<p>戒めを守ることによって、天の御父から愛されることができる。</p>	<p>分別がついて責任を持つことによって、両親やほかの人々から信頼を得られる。</p>	<p>神の戒めに従えば、イエス・キリストを通して完全な真理を受けることができる (教義と聖約 93:27 参照)。</p>



「主はあなただけ」の一部分、ル・ハン・編 聖書S画\GETTY IMAGES

あなた

についての事実

救い主とその生涯について幾つかの事実を理解することで、主に従うことがほんとうに可能だと信じられるように感じるでしょう。

教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

すべてにおいて、イエス・キリストはわたしたちのだれよりも、はるかに優れておられます（イザヤ 55：8-9；アブラハム 3：19 参照）。イエスが、御父から「愛され、初めから選ばれ」（モーセ 4：2）、その栄光を得られたことは決して偶然ではありません。

それでも、救い主が偉大であられるからと言って、「わたしに従ってきなさい」という主の招きが、まるで不可能なことを要求されているかのように感じる必要はないのです。現代の啓示を通して、救い主の模範に従うという目標が、どれほど達成可能なものであるか理解できます。

以下は、イエス・キリストについての幾つかの事実と、あなたについての幾つかの事実です。これを見ると、天の御父が備えておられる祝福のすべてを受けるために主が歩まれたその同じ基本的な道を、自分も歩むことができると感じ



教えに教えを加える

「もし、神の御子であり、わたしたちが住んでいる天地の父であるイエスが最初から完全を受けられたのではなく、受けるまで信仰や知識、理解そして恵みを増し加えていかれたのならば、女から生まれたすべての人がここにも少し、そこにも少しと、教訓に教訓、規則に規則を加え、イエスと同じようについに完全を受け、ともに昇栄し、御父の前に住むことは可能ではないでしょうか。」

『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』
153

「最初から完全は受けず、恵みに恵みを加えられた。」（教義と聖約 93：12）これは、主が初めに地上に来られたときには、御自身とその使命について完全な知識をまだお持ちではなく、全能の力もまだお持ちではなかったことを意味しています。主は御父に従うことによって、神から知識と力を授けられていったのです。

「すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われた……」

罪は犯されなかった。」
（ヘブル 4：15）

られるでしょう。

もちろん、イエス・キリストについてのほかの事実も、あなたが主に従うことが可能だと示しています（例えば、主がバプテスマを受けられたようにあなたもバプテスマを受けた、あるいはこれから受けられることなど）。そして、イエス・キリストについて学ぶことによって、この世でのあなたの人生の道に関して言えば、ほんとうに主が「光と生命の道を示し」てくださいます（「高きに満ちたる」『賛美歌』112 番）。■

生まれたときには、自分自身とその目的についての完全な知識がなく、少しずつ知識を増してきた。聖霊を通して、神はわたしたちに「教えに教えを、訓戒に訓戒を加えて」霊的な知識と力を授けてくださる（2 ニーファイ 28：30）。

試練を受ける。

（すべての人と同様に）罪を犯したことがある。——しかし悔い改めて、バプテスマを受け、聖霊を受け、聖餐を取るによって、イエス・キリストの贖いを通して清められることができる。





七十人
クラウディオ・R・
M・コスタ長老

預言者に 従う

現在わたしが頂いている祝福はすべて、
現代の預言者に関する証からもたらされて
います。

19 77年6月にバプテスマを受けたわ
たしは、28歳になっていました。
わたしが福音を受け入れる決意を
したのは、現代の預言者について信仰と知識を
得たからでした。

わたしが12歳のとき、宣教師がわたしやわ
たしの家族、つまり両親や弟、そして二人の妹と出
会いました。そして宣教師たちは家族について
話してくれました。その説明によると、教会員た
ちは家族の夕べというものを開いているというこ
とで、家庭の夕べについて説明してくれたのです。

しかし父はこう言いました。「訪ねてくれたのは
ありがたいが、興味がないんだ。」わたしはとても
悲しくなりました。しかし父はこう説明してくれた



わたしは最初の示現について読みました。

のです。「クラウディオ、我が家では週7回家族の夕べを開いているんだぞ。それを宣教師たちは週1回しか必要ないと言うんだからな。我が家には教えてもらうことなどないさ。」

5年後、わたしが17歳になったとき、わたしはほかの町で就職し、独り暮らしを始めました。わたしが実家から離れていたとき、宣教師が改めて両親の家を訪問しました。このときは、家族で話を聞き、バプテスマを受けました。両親から話を聞いたとき、わたしは「ぼくは今、宗教には関心がなから」と答えました。

それからまた5年がたち、わたしは実家に戻り、新しい仕事を探していました。当時、父はワードの伝道主任でした。そのため毎日午後になると、宣教師がやって来て、短い時間ですが伝道計画の調整をしていました。ある日、宣教師が父に尋ねました。「あそこにいる青年はだれですか。」

父は、「あれはわたしの上の息子なんです」と答えました。

「会員なんですか。」

「いいえ。」

「彼と話をする必要がありますね。」

でもわたしは、「結構です。興味がありませんから」と答えました。

ジョセフ・スミスについて学ぶ

そんなある日、父の了承を得て、我が家で宣教師たちが一人の女性を教えることになりました。宣教師は午後5時ごろやって来て、その女性に教え始めました。宣教師たちはわたしが隣の部屋で、友達と会いに出かける前にサンドイッチを

作っているということは承知していました。宣教師は、少年預言者ジョセフ・スミスと最初の示現について教えています。わたしは隣の部屋からその話を聞いていました。

準備が整い、家を出ると、御霊がわたしの心に働きかけ、幾つかの疑問がわたしの頭の中をよぎりました。「姉妹宣教師たちがこの女性に教えていることを、あなたはなぜしようとしませんか。ジョセフ・スミスの歴史について勉強し、彼が預言者だったのかどうか、主に尋ねてみないのは、なぜなのか。」わたしは、自分に向かってこう答えていました。「わたしは幸せですし、善いことを実践していますから。わたしにはそんなものは必要ありません。」しかし、御霊がわたしを放そうとしないため、わたしはその晩、友達に会いに行くのをやめることにしました。わたしは家に戻りました。

そして母にこう尋ねました。「ジョセフ・スミスの歴史はどこに載っているの。」母は自分の聖典をわたしに渡して、ジョセフ・スミスー歴史が載っているページを教えてくださいました。わたしはそこを読み、祈りました。最初の段落を読むと、それについて深く考え、そして書かれていることが真実かどうか天の御父に尋ねました。この作業を各段落ごとに繰り返し、とうとう最後まで読み終えたのです。わたしは心の底から答えが欲しいと思いました。その日は、翌朝の9時20分まで、夜通し読んで祈っていました。

主が、ジョセフ・スミスは預言者であるとわたしに明らかにしてくださったのです。わたしにとって実に神聖な経験でした。祈り終わると、わたしは「宣教師を見つけてバプテスマを受けます。この確かな知識を得たのですから」と約束しました。



ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリのバプテスマについて読みました。預言者ジョセフ・スミスの証について読みました。

LUK4・7:14-17, 24-25

わたしは姉妹宣教師たちに「わたしは今すぐバプテスマを受ける必要があります」と言いました。宣教師からは、事前に受けなければならないレッスンや、決意しなければならないことがあると説明を受けました。でも、わたしはこう言いました。「わたしは1日だって無駄にしたくないんです。ジョセフ・スミスは預言者であるということを主がわたしに示してくださったことを知っているのですから。」

姉妹宣教師たちはゾーンリーダーに電話をしました。ゾーンリーダーは本来かかる時間よりも短い時間で福音のレッスンを行うことに同意してくれました。また、バプテスマの面接の日程を組み、さらに、伝道主任に話しておく必要があるとも言いました。わたしは言いました。「大丈夫ですよ。自分でワードの伝道主任と話しますから。伝道主任はわたしの父なんです。父はわたしがバプテスマを受けるよう、何年も祈っていたんです。」

わたしのバプテスマは、決して忘れられない経験となりました。ほんとうに心地よく、すばらしい気持ちを感じました。わたしは自分が新しく生まれたような気持ちになりました。清くなったのです。神を身近に感じ、ほんとうに幸せでした。

生ける預言者に従う

わたしは1820年に聖なる森で起きた出来事について、確固とした証を得たことで、福音や教会にはいつも積極的に関わってきました。わたしは奉仕するようになり、召しを果た

し、持てるすべてを教会のために注ぎ込むようになりました。

バプテスマを受けて2週間後、わたしはステーク会長から、ステークのヤングシングルアダルトの指導者として召されました（もっともわたしはステーク会長に、「ステークとは何ですか」と尋ねてしまいましたが）。それからさらに2週間後、わたしは地域の独身者のための大会を企画していました。この大会は教会の歴史上、独身者のための最も成功した大会となりました。何と云っても、わたしがそこで将来の妻と出会ったのですから。

その1年後、わたしたちは結婚しました。それから38年経た今も幸福な結婚生活を送っています。わたしたちは4人の子供と10人の孫に恵まれています。今頂いている祝福は皆、わたしたちが下した判断が基になっています。結婚する前、わたしは妻にこう言いました。「生ける預言者に100パーセント完全に従おうとするわたしを支持してくれますか。」彼女は「はい」と答えました。

わたしがバプテスマを受けた後で、預言者から最初に聞いたのは、スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985年）の話でした。自立することと賢明に金銭を扱うことについて話したのです。大管長はまた、子供たちに良い教育を受けさせるようにとも言いました。¹ この二つのことは我が家でずっと教えられ、大きな祝福となっています。我が家の子供たちは現在良い境遇で生活していますが、これはわたしが賢かったからなどということではありません。ただ



わたしはキンボール大管長の勧告に従いました。



このおかげでわたしは子供たちに良い教育を受けさせることができました。

預言者に従う道を選んだからなのです。

わたしは主や、兄弟姉妹たちのために奉仕をするのが大好きですが、それは預言者たちからそう教わったからです。

自分自身の証を得る

預言者に従ってください。預言者たちの言葉に耳を傾け、その教えを実践してください。そうすれば必ず幸せになります。教会や福音に関するわたしの信仰や証は、ジョセフ・スミスが預言者であったというわたしの証からもたらされたものです。

わたしは天の御父とイエス・キリストを愛しています。御二方と永遠にともに過ごすことはわたしの望みです。だからこそ、預言者たちの声に耳を傾けることは大切です。それは、預言者たちこそ神のもとへ帰る道を知っている人たちだからなのです。

わたしは、すべての若い人々は誠心誠意、ジョセフ・スミスの歴史を読み、心と思いを開いて、天の御父に尋ねてみる必要があると思っています。そうすれば間違いなく主は、わたしに下さったと同じように、答えを下さいます。現在の聖典にある記録を読むと、強い証がもたらされます。その後ほかの記録を読むのもよいでしょう。²

ジョセフ・スミスは確かに光を見、父なる神とイエス・キリストにまみえ、御二方がジョセフ・スミスに語りかけられました。これは御霊を通じて、神から与えられた知識です。

皆さんが心の中にこの確信を得たら、次は、生ける預言者たちの言葉を知るという目標を設定してください。聖文や総大会、『若人のために』や教会の雑誌、LDS.orgにある預言者の言葉を研究してください。セミナーや日曜学校、定例会やクラスの集会で彼らの勧告について学んでください。預言者の定める優先順位に基づいて目標を設定してください。そして、それを実行します。

そうすれば、皆さんは主を身近に感じられるようになります。学校でもあらゆる場面でも知性が深まっていくのを感じることができます。自分が決して一人ではないことを忘れてください。皆さんの周囲には、皆さんを支えてくれる人々がいて、ピショップや支部会長をはじめ、いつでも手助けしようと待っています。さらに主とその御霊が皆さんとともにいてくださるのです。■

注

1. スベンサー・W・キンボール「福祉活動——福音の実践」『聖徒の道』1978年2月号、116-121参照
2. 「最初の示現の記録」福音のテーマ、topics.lds.org参照



預言者に従うことでわたしの家族は祝福を受けてきました。

自分自身を赦すために大切なこと

5 か月がたっても、まだ自分自身を赦すことができませんでした。ちょっとした気の緩みで、恥ずべきことをしてしまっただけからは、負のスパイラルの中にいるような思いでした。ほかのことについても、自分が正しくないと思うことをする度に、恥じる思いが積み重なっていきました。心に安らぎを感じることはできなくなりました。

マディソン・チャイルド

わたしは自分自身を懲らしめる必要はありませんでした。なぜなら、イエス・キリストがすでにわたしの罪を贖ってくださったからです。



写真: GETTY IMAGES / キンクダ 著、ハンナ・ジョー・ホントマン 画

わたしは赦しを求めて祈り、神が赦してくださったことさえも感じましたが、自分自身を赦すことがどうしてもできませんでした。罪を犯したのですから、どうして赦せるでしょうか。自分を何度も何度も責めて、前に進むことができない状態でした。

そのように感じていたときに、わたしは夏のユースカンファレンスに参加し、救い主の贖いに焦点を当ててたくさん学ぶ機会がありました。ある日、ふとエノス書の次の聖句を見つけました。「『エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。』

わたしエノスは、神は偽りを言われるはずがないので、わたしの罪がすでにぬぐい去られたのを知った。」(エノス1:5-6)

その聖句はわたしにとって、とても力強いものでした。わたしのように、エノスも何か悪いことをしてしまい、赦しが必要だったのだと気づきました。エノスは、赦しを願い求めたときの大変な経験を「神の前で味わった苦闘」とまで表現しています(エノス1:2参照)。しかし最終的には、一日中祈り求めた後、エノスは平安を感じました。そしてエノスが「主よ、それはどうしてですか」と尋ねたとき、主は「あなたが、……キリストを信じているからである」とお答えになりました(エノス1:7-8)。

それだったのです! エノスはイエス・キリストを信じていました。もしエノスが救い主に罪悪感を取り除いてもらえたのであれば、わたしも主に頼って、自分の生活にその同じ平安をもたらしていただけないことがあるでしょうか。それからは、自分自身を赦せないと感じたときには、イエス・キリストの愛と赦

しについて考えるようにしました。そして、良くない気持ちを捨てて、恥じないようにする力を求めて祈りました。時間はかかりましたが、多くの祈りを通して、絶えずつらい思いをすることはなくなりました。ようやく平安を感じました。

この経験を通して、キリストの恵みについてたくさん学びました。罪を犯した後、神の御心に添った悲しみを感じ、祈り、悔い改め、そして神が赦してくださいという確認を得ました。それでも自分を責め続けていたのです。最後にやっと気づいたのですが、その罪を犯したことによって、自分自身を苦しめ続ける必要はなかったのです。なぜなら、イエス・キリストがすでに贖いを通してその代価を支払ってくださったからです。主にとって、つらく、痛みを伴うものだったと思いますが、主はわたしが苦しまなくてもいいように、御自身で苦しまれたのです。

それが分かってからは、イエス・キリストに頼り、自分と主、そして天の御父との関係を強めることによって、主の平安に満たされるということを学びました。わたしは毎日祈り、聖典、特にモルモン書を読むように心がけています。そして前向きな思いにしてくれる活動に参加し、善良な内容のメディアを利用するように努めています。

今でも過ちを犯してしまうことがありますが、悔い改めて最善を尽くすときに、イエス・キリストが恵みをもって祝福してくださることを知っています。主と天の御父に頼るときに、罪悪感や恥じる思いはなくなります。今では、イエス・キリストを信じることによって得られる平安を知っていて、それによって強くなりました。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



贖いの犠牲を払われたからこそ、
イエス・キリストは
全人類を**贖う**

力と権能を持っておられます。

デール・G・レンランド長老
「神権と救い主の贖いの力」
2017年10月総大会

そこが知りたい

完全に悔い改めたかどうか、
どうすれば分かりますか。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は次のように教えています。「悔い改めとは変わる努力を意味します。……真の変化にはたゆまぬ努力が求められます。」また次のようにも言っています。「わたしたちが主に完全に立ち返るには、主への従順の聖約を交わさなければなりません。」（「悔い改めという神の賜物」『リアホナ』2011年11月号、39）その聖約はバプテスマの聖約と聖餐に含まれています。完全な悔い改めには、人に与えた損害を償うことも含まれます。さらに主は、罪を完全に悔い改めた人は、「それを告白し、そしてそれを捨てる」と言っておられます（教義と聖約58：43）。すべての罪を天の御父に告白し、重大な罪はビショップにも告白すべきです。（よく分からないときは、ビショップに相談してください。ビショップが助けてくれます。）

これらのことを行った後、完全に悔い改めたかどうかを知る一つの方法は、悔い改めの効果が目に見え感じられるか——つまり、あなたの望み、思い、物の見方、人との関係、行いなどが変わったかを確かめることです。そして、最も大切なことですが、完全に悔い改めるとき、聖霊が伴侶となってくださいます。■



伴侶を選ぶのは大きな決断です。
そのことで不安になっています。
どうしたら正しい選択をしていると
分かるでしょうか。

結婚相手を決めるのは、この世と永遠の幸福に影響を与え、重大な決断です。しかし、行動できなくなってしまうほどの不安を抱かせるようなものではないはずです。戒めを守り、正しい勧告に従っているなら、その決断に平安と喜びを感じることができます。このことに関して教会の指導者が繰り返し教えていることの幾つかを挙げてみましょう。

結婚相手について、「正しい」選択の可能性は複数あります。多くの人と知り合うようにしましょう。高い標準を備えた人とデートしましょう。ふさわしい生活をしましょう。あなたがヤングアダルトなら、一緒に神殿に行くことができる人とデートしましょう。将来伴侶となる可能性のある人とは、一緒に天の御父との聖約に入ることができるかどうか判断できるほど知り合う相手です。親から助言をもらいましょう。「心の中でそれをよく思い計り」、その後、「それが正しいかどうか[神]に尋ね」ましょう（教義と聖約9：8）。あなたの選択が正しいかどうかの確認は様々な方法で得られる可能性がありますが、相手の人も確認を得なければなりません。互いに約束をしたら、互いの「魂の友」となるように努力しましょう。■

わたしたちのスペース



「誘ってくれてうれしかったよ」

ネイトと初めてデートしたとき、彼が末日聖徒ではないことを知り、驚きました。とても礼儀正しい人でしたが、家に帰ってから考えてみると、彼とまたデートしたいかどうかよく分かりませんでした。

翌週ネイトから電話があり、^{おおみそか}大晦日の夜に出かけないかと誘われました。「ごめんなさい、ネイト。大晦日は日曜でしょう。夜は家族と一緒に大管長会の放送を見ることになっているの。」次の瞬間、促しを感じて、「もしよかったら、一緒に見る?」と聞いて

みました。彼がそうするよと言ったときは驚きました。

キリストにさらに近づくような目標を立てましようと言われたのを聞きながら、わたしは御霊を強く感じました。ネイトは言葉の一つ一つに耳を傾けていました。彼が帰った後、わたしは穏やかで平安な気持ちになりました。翌朝、彼から電話がありました。

「昨晩は招待してくれてありがとう」とネイトは礼を言うと、「友達はみんなパーティーしてたんだけど、ぼくは

行きたくなかったんだ。あまり良くないこともやったりするからね。だから、誘ってくれてうれしかったよ。とてもいい気分だ」と言いました。

正しいことをしたのだと、御霊から告げられたのを感じました。良い友達であろうとしたおかげで、義にかなった生活をもたらす祝福をネイトに感じてもらったのです。神がわたしたち皆を気にかけて、正しいことを選べるようにしてくださっていることを、わたしは知っています。■

レイチェル・H (アメリカ合衆国、テキサス州)

ティファナで道に迷う

ある年、家族と一緒に車でメキシコのティファナに向かいました。そこに住む会員に会ったり、伝道本部に物を届けたりするためです。ですが、アメリカ合衆国カリフォルニア州とメキシコとの国境を越えた辺りで道に迷ってしまいました。だれも携帯電話を持っていなかったので、助けを呼ぶ手段がありません。

しばらくして妹が、一旦車を路肩に止めて祈ろうと言いました。妹が祈りをささげる間、みんな目を閉じ、頭を下げていました。祈りが終わって目を開けると、神殿のステッカーを貼ったタクシーが目に飛び込んできました。カリフォルニア州サンディエゴ神殿のステッカーです。「神殿だ!」とわたしは叫びました。

姉が素早く車から降りると、渋滞で止まっていたそのタクシーに駆け寄りました。運転手と短い会話を交わした後、走って戻って来ると、タクシーについてくるように言われたと告げました。車の間を縫うように走るタクシーを追いながらティファナの道を行ったり来たりしていると、伝道本部に到着しました。

この経験は、天の御父が生きておられ、わたしたちを見守ってくださっているという証を強めてくれました。家族で忠実に祈るのは最高の気分です。神は確かに祈りを聞いてくださっているのです。■

コルビン・D
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)

わたしの家族歴史はほんとうに終わっている?

家族歴史を手伝いたいと思っていましたが、父の系図にはすでに7代分の記録があり、神殿の儀式も完了していました。11年もの間、家族に関する新たな情報は見つからないままです。願いも希望もついえました。意気消沈して自分に問いかけました。「わたしの家族歴史は完了してしまった。神殿に持っていく名前をどこから見つければいいのかしら。」

父のファミリーサーチの系図表にある情報をすべて確認してみることができましたが、そのとき、やれることはまだたくさんあるという声が聞こえました。手始めに、インターネットで広く情報を検索することにしました。わたしと同じ姓の人をたくさん見つけることができましたが、親族かどうかは確認できませんでした。

希望が尽きると、家族歴史活動がうまくいくよう母と一緒に断食することになりました。次の日曜日の朝、教会に行く準備をしている間に、いつものようにインターネットで検索してみました。するといきなり、見たことがない情報の載ったページが出てきたのです。奇跡でした。

新たな情報のおかげで、わたしは14歳にして400人もの家族の名前を神殿に持っていくことができたのです。わたしは大喜びしました。名前を青少年に分け、たくさんのカードを手にも喜ぶ顔を見られたことが、何よりもうれしかったです。

この大いなる驚くべき業について証します。わたしたちが家族歴史に取り組むとき、成功するように御霊が助け、心に触れてくださるのです。■

ギレルモ・T(チリ)





1

3つの言語

ぼくのお父さんは香港出身で、お母さんは中国の広西省の出身です。ぼくは、広東語、北京語、英語の3か国語を話します。ぼくの支部では、せいさん会で広東語と北京語が使われ、初等協会は英語の支部といっしょに開いています。

いつでも たす 助けます!

ぼくは、いつでも助けられるようにじゅんびして、光をかがやかせようとしています。何か必要なことがあるとき、ぼくはじゅんびができています。

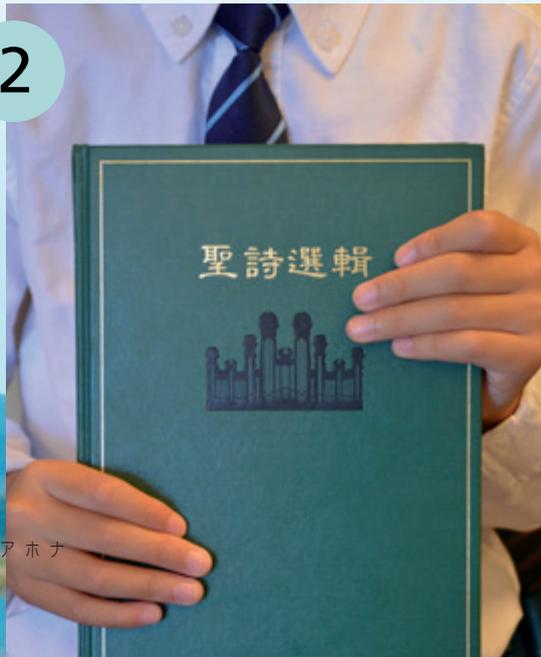
こんにちは、
ぼくの名前は
アーロンです。

カナダのブリティッシュ・
コロンビア州
出身です。

さんびか 賛美歌をわたす

毎週日曜日、ぼくは宣教師がプログラムをみんなにわたすのを助けます。必ずみんなに行きわたるようにしています。さんびかを持っていない人がいたら、さんびかを歌えるようにさんびかをわたします。

2



未来の宣教師

ぼくはいつか伝道に行くのを楽しみにしています。ぼくの初等協会の先生が、今からお金をためられると教えてくれました。なので、宣教師貯金箱に、お金をためています。



3



4

おじいちゃんといのり

いのりは大切だと知っています。お父さんとお母さんが遠くに行ったとき、おじいちゃんがぼくと妹の面倒を見に来てくれました。ぼくは、みんなで必ずおいのりするようにしました。



5

やりとげる

教会で活動があるときは、最後までいて、椅子やテーブルを片付けるのを手伝います。初等協会のせいさん会の発表をするとき、ぼくは自分のせりふを言うのが好きです。

どのようにかがやくことができますか

- 初等協会で椅子をならべたり、片付けたりする。
- 教会で友達を必要としている人をさがす。
- ごみを拾う。
- みんなに賛美歌が配られているかたしかめる。
- 家族がおいのりするのをわすれないように助ける。

星を送ってください!

イエスにしたがうために、どのように光をかがやかせることができますか? あなたの経験を書いた星の写真と、あなたの写真と、お父さんやお母さんのきよか書を liahona@ldschurch.org に電子メールで送ってください。



ただ
正しい
えら
び

ジャスティナ・リヒナー

ほんとうにあったお話をもとに書かれました。

「そして人は……選ぶことも自由である」(2 ニーファイ 2: 27)

ジャスティナは、いつもよりもっとせすじをのばして席にすわり、新しい鉛筆を何本かつくえの上に置きました。今日は学校の最初の日でした。クラスメートに初めて会ったり、楽しい絵をかいたりしました。

その後、ワーナー先生が「作文の時間です」と言って、クラスのみんなに紙を配りました。「書く時間は30分です。その後、休み時間にしましょう。」

ジャスティナは、はっと息をのみました。「ああ、何てことだろう。もう書くの?」と思いました。

去年、ジャスティナは読み書きで苦労しました。友達みんな、読んだり書いたりするのが好きみたいでした。そんなにむずかしいとは思っていないようです。今年も去年と同じだったらどうしよう。

ジャスティナはそう思いながら、鉛筆を持ちました。紙を見たら、胃がキリキリしました。ジャスティナ以外は、みんな書いていました。

ジャスティナは先生に話したいと思いましたが、ジャスティナがこまっていると知ったら、先生はおこるでしょうか。もしおこられたとしても、書くよりはましな気がしました。

ジャスティナは先生の席に歩いて行きました。「ワーナー先生。これ、去年書いたのよりも、むずかしいです。自分にはできないと思います。」

ワーナー先生は、おこっているようには見えませんでした。先生はジャスティナにほほえみかけながら、こう言ってくれました。「自分にできることをやりなさい。自分にどんなことができるかを知ったら、びっくりするわよ。得意なことばかり選べるわけではないけれど、どのくらい努力するかは自分で選べるのよ。」

ジャスティナは自分の席にもどり、ワーナー先生が言ってくれたことについて考えました。「挑戦することを選べるんだ。」それは、初等協会で学んだことと同じでした。ジャスティナのクラスで、わたしたちは「選ぶことも自由である」というせいくを読みました。それは、自分自身で選ぶことができるという意味です。天のお父様は、わたしたちには良い選びができる信頼してくださっています。お父様はわた

したちが失敗をしても、助けると約束してくださっています。

今年の学校生活は前とはちがったものになるのでしょうか? たぶん、ちがったものを選ぶことができるのかもしれない。ジャスティナはそう思いながら、鉛筆を持ちました。紙を見たら、胃が楽になりました。「そうだ。やってみよう」と思いました。

休み時間のベルが鳴りました。ジャスティナはまだ書き終わっていませんでした。でも、半分以上は終わっていました。手を上げて、「教室に残って、書き続けてもいいですか? もう少して終わるので」と聞いてみました。

ワーナー先生はにっこりして、うなずきました。

ジャスティナはやっと紙を提出しました。少し手がいたくなりました。のうみそもいたくなりました! でも、笑顔でした。そんなにがんばって作文を書いたのは初めてでした。

次の日、読書の時間に、ワーナー先生は、みんなに20分間本を読むように言いました。ジャスティナは、またがんばって、本を開いて、声に出して読みました。

ジャスティナは毎日選ぶようになりました。本を読むことを選び、書くことを選びました。読んだり書いたりするのは、そんなにいやなことではないなと思いました。

図書館に行くことさえ選ぶようになり、どんな本があるかを見たりしました。去年だったら、そんなことは絶対にしなかったでしょう。やがて、ずっと本を読むようになりました。そして、それがほんとうに楽しいと感じました。読めば読むほど、書くのも上手になりました。

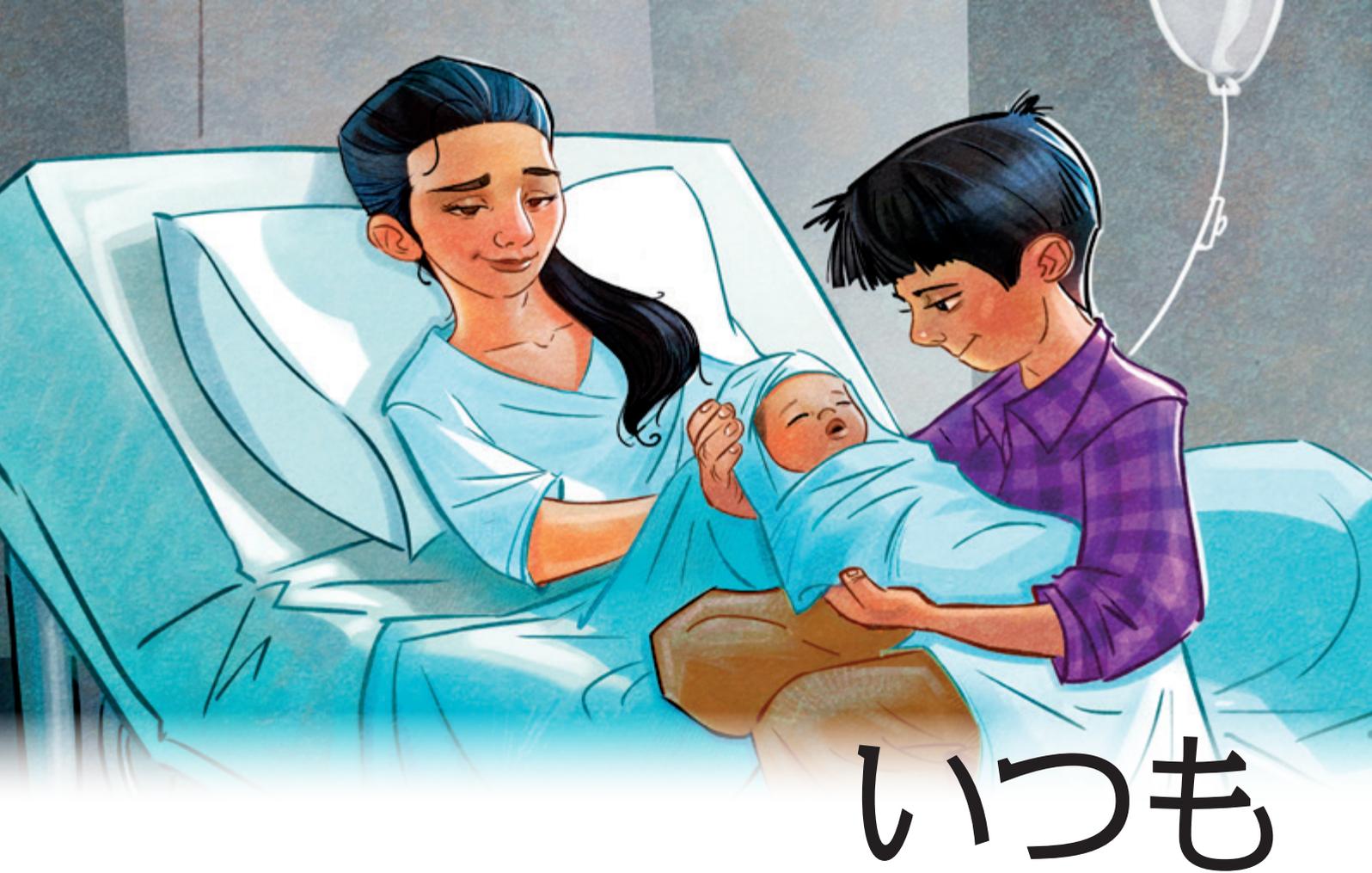
大きくなったジャスティナは、努力して熱心に読んだり書いたりしてよかったと思いました。今では、大好きなことになったからです。■

このお話を書いた人は、ドイツのラインラント-パラチナートに住んでいます。



大人になって

こんにちは。わたしはジャスティナです。書くのが好きになってから、わたしはただ書き続けました。高校でも書いて、大学に入ってから書くことについてもっと学びました。今、わたしは作家になりました。子供のときの努力について書いたこの物語のようなお話を書いています。これまでざっしやウェブサイトで、新聞の記事を書きました。



いつも

ジョーダン・ライト

ほんとうにあったお話をもとに書かれました。

「家族をみな結ぶ道を主は教えたもう」(『子供の歌集』98)

セスは後ろの席にすわって、おかしい歌を歌いながらピョンピョンしていました。「じっとしていてくれないか、セス」とお父さん。「集中して運転しないとイケないんだよ。」

「落ち着いてなんかいられないよ」とセスは答えました。「だって、すごいんだもん!」

お父さんはにっこりしました。「セスが、新しい弟に会うのをそんなに楽しみにしてくれて、お父さん、うれしいよ。」

病院に着くと、セスはお母さんの部屋にかけてきました。お母さんはもう5日もそこにいるので、どこの部屋かは知っていました。赤ちゃんのカレブが病気で、お母さんも少し具合が悪くて、入院しなければならなかったのです。セスはカレブに会わせてほしいと、何万回もお願ひしましたが、お母さんからはいつも「まだだめよ」と言われてしまいました。カレブが強くなって、お見舞ひの人が来てても大丈夫かどうか、お医者さんたちが決めるのだそうです。

今日、お医者さんから電話がありました。ようやく今日きょうかが出たのです!

セスが、お母さんが入院している部屋に行くと、お母さん

はもうカレブをだっこしていました。セスは弟を見ようと、かけよりました。カレブはとっても小さくて、セスのいとこの赤ちゃんより、ずっと小さく見えました。鼻と耳が何だかちがって見えました。小さな小人みたいに見えました。

「あら、セス」お母さんが言いました。「こっちに来て手をあらって。そうしたら赤ちゃんをだっこできるわよ。」

セスは特別な石けんで手をあらいました。病院のベッドに上ってお母さんのとなりにすわりました。お母さんは前かがみになって、赤ちゃんをだっこさせてくれました。お父さんが、ちゃんとだっこできるように、手を動かしてくれました。

セスはカレブを見て、「こんにちは、カレブ」と言いました。「ほくが、お兄ちゃんのカレブだよ。カレブはね、ほくの部屋でねるんだよ。ほくのおもちゃ、全部見せてあげるね。公園でいっしょに遊べるよ。」

赤ちゃんのカレブは、セスをじっと見っていました。セスは、カレブはいちばんいい赤ちゃんだと思いました。

セスのうでがつかれたので、今度はお父さんがカレブをだっこしてくれました。お母さんはセスの片手を取って、目をじっと見つめました。

そして、こう言いました。「セス、初等協会で、救いの計画について学んだことを覚えてる?」



きょうだい

セスは、うなずきました。その日は、とてもすてきな1日でした。ロベス先生は、ぼうに付けた月と星と大きな惑星の地球を持ち、セスは太陽を持ちました。

「わたしたちが地球に来る前、天に住んでいて、死んだらもう一度天に帰るといこと、覚えている?」

セスはもう一度うなずきました。

「カレブはまだ重い病気なの。そしてお医者さんは、長くは生きられないだろうとおっしゃっているわ。カレブはもうすぐ死んで、天に帰るのよ。」

セスはお母さんを見ました。そして、お父さんにだっこされているカレブを見ました。そして、悲しそうな顔をしました。のどがつまりました。「でも、ほく、カレブのことを愛してるのに。カレブにここにいてほしいし、ほくの部屋で一緒にねてほしいし、一緒に遊んでほしいよ。カレブはここにいたくないの?」

お母さんはセスをうでの中にだいてこう言いました。「もちろん、カレブもわたしたちと一緒にいたいわ。家族ですもの。でも、もう一度会えるわ。」

「ほんとに?」

お母さんはうなずきました。「お父さんとお母さんは神殿で結婚して、永遠に家族として一緒にいられるという約

束を受けたから。セスもカレブも、ずっとお父さんとお母さんの子供よ。」

「カレブは、ずっとセスの弟だっていうことだよ」とお父さんが説明してくれました。「天でまたカレブに会えるよ。」

セスは悲しい気持ちでした。何となく、いかりさえ感じました。でも、天でカレブにまた会えると思うと、少しにっこりしました。手をのばして、カレブのやわらかなかみの毛にさわりました。「天でもきょうだいでいられるんだね? すてきなことだね。」

お母さんがセスのほほにキスしてくれました。「ほんとにすてきなことね。」

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国アイオワ州に住んでいます。



ほんとうの終わりはない

「天の御父の計画にほんとうの終わりはない、あるのは永遠の始まりだけです。」

大管長会第二顧問 ディーター・F・ワークトルフ管長

「どんな状況にあっても感謝する」『リアホナ』2014年5月号, 77



「全人類の救い主、あがない主であるイエス・キリストは、死んではおられません。生きておられるのです。神の、復活した御子は生きておられます。それがわたしのあかしです。」

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

「贖罪と一人の価値」『リアホナ』2004年5月号、85 - 86 から

わたしは聖文を読むことができます

アブラハムの聖約

聖句を読んだら、絵を見てそれに合った番号の部分に色をぬりましょう。

1. アブラハム 1:1-2
2. アブラハム 2:3-6
3. アブラハム 2:8-12
4. 創世 13:14-18
5. 創世 17:3-8
6. 創世 17:15-19
7. 創世 18:10-14
8. 創世 21:1-3



アブラハムとサラ

神は、アブラハムとサラに、二人は祝福され、子供をさすかると聖約されました。聖約とは約束のことです。アブラハムとサラは長い間子供がいまませんでした。それでも、従順でした。アブラハムとサラが 100 才近くになったとき、息子が生まれました。わたしたちが従順であるなら、神はわたしたちを祝福してください。そして、その祝福は、神が最もよいとごぞんじのときにあたえられます。

- アブラハム第 2 章 9 節を暗唱しましょう。
- 従順であるために、今日何ができるのかを考えましょう。自分がしたことや感じた気持ちを書きましょう。
- scripturestories.lds.org で、旧約聖書のビデオの第 8 章を見ましょう。
- わたしは従順になるために、_____ できます。

ゲツセマネ

簡易伴奏用

気持ちを込めて ♩ = 44-48

詩・曲 メラニー・ホフマン

Dm C Am B♭ C B♭

イ エ ス さ ま ゆ っ く り と お か を の ぼ ら れ

1 2 1

1 5

Detailed description: This system contains the first two staves of music. The top staff is in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a 6/8 time signature. It features a melody with eighth and quarter notes, and rests. The bottom staff is in bass clef with the same key signature and time signature, providing a simple accompaniment with quarter and eighth notes. Chord symbols are placed above the treble staff.

Dm C Am B♭ C Dm

い の り と あ い を さ さ げ ー る た め に

1 5

Detailed description: This system contains the third and fourth staves of music. The notation follows the same format as the first system, with a treble staff for the melody and a bass staff for the accompaniment. Chord symbols are placed above the treble staff.

C F C F B♭ F C

ゲ ッ セ マ ネ わ た し の た め に し ゅ は い か れ た の

1 3 1 4

Detailed description: This system contains the fifth and sixth staves of music. The notation follows the same format, with a treble staff for the melody and a bass staff for the accompaniment. Chord symbols are placed above the treble staff.

B♭ C Dm (C) (Dm) C

ゲ ッ セ マ ネ へ し ゅ は す べ て を

4 2 3 1

Detailed description: This system contains the seventh and eighth staves of music. The notation follows the same format, with a treble staff for the melody and a bass staff for the accompaniment. Chord symbols are placed above the treble staff.

Am B♭ C B♭

し っ て る つ み も かな し み も た い

5

Detailed description: This system contains the ninth and tenth staves of music. The notation follows the same format, with a treble staff for the melody and a bass staff for the accompaniment. Chord symbols are placed above the treble staff.

Copyright©2018 Melanie Hoffman. All rights reserved.
教会あるいは家庭における一時的また非営利目的の使用に限り、
この表示を含めて複製することを許可する。



Dm C Am B \flat C Dm

せ 一 つ な や く そ く ま も 一 る た め に

1 5

C F Dm C F B \flat F C

ゲ ッ セ マ ネ わ た し の た め に し ゅ は い か れ た の

2 1 3 1 4

B \flat C Dm C F C

ゲ ッ セ マ ネ ヘ い ち ば ん の く る し み い

4 2 1

B \flat C F C B \flat C F C

ち ば ん の い た み を お お き な 一 た た か い を の り

2 1 3

B \flat F C B \flat F C Dm C F

こ え ら れ た の そ れ が イ エ ス さ ま ゲ ッ セ マ ネ
ゲ ッ セ マ ネ

3

B \flat C F B \flat F C B \flat C Dm

あ い あ ふ れ る し ゅ の お く り も の ゲ ッ セ マ ネ で
あ い あ ふ れ る し ゅ の お く り も の ゲ ッ セ マ ネ か ら

1 2 1 3 1 4 5 2 1 3 1 4

ノア

キム・ウェブ・リード



昔々、地上にいた人々は悪い選^{えら}びを
していました。神はノアという名^な前の、
勇気ある預^よ言^{げん}者^{しゃ}をつかわされました。
ノアは人々に、^{あらた}改^かめて神を愛^{あい}さな
なければならないと言^いいました。人々は
ノアの言^いうことを聞^きいたでしょうか。
いいえ、聞^ききませんでした。悪^{わる}い行^{おこな}い
を続^{つづ}けていました。

神はノアに、地上の悪^{わる}いものをなくしてしま^いうと言^いわれました。神はノアに、箱船^{はこぶね}という大^{おお}きな
船^{ふね}をつ^{つく}るよう^いに言^いわれました。ノアは家^か族^{ぞく}と動^{どう}物^{ぶつ}たちを^{あつ}集^{あつ}めて、箱船^{はこぶね}に^の乗^のせました。その^{あと}後^ご、
雨^{あめ}が^{はじ}ふり^{はじ}め^{はじ}ました。





あめ 40 日 40 夜 降り 続け ました。
 地球 全体 が 水 で おお わ れ ました。
 ノア と 家族 と 動物 た ちは、
 箱 船 の 中 で 安全 で した。



ついに、雨 が や み ました。
 洪水 の 水 が 引 き ました。
 ノア は 空 に、に じ を 見 ました。
 神 は 二 度 と 洪水 が 地球 を
 おお う こ と は な い と 約 束 さ れ ました。

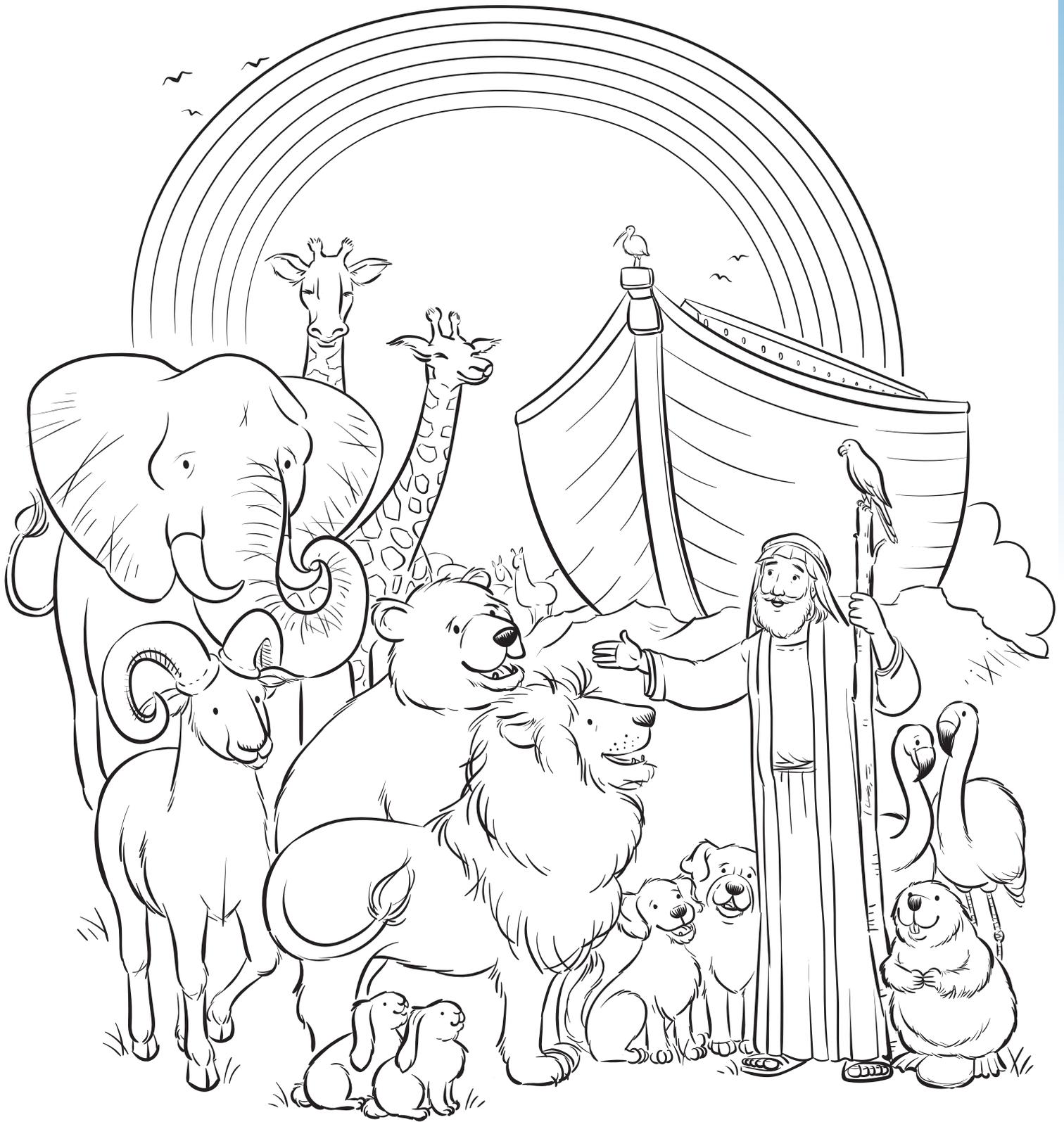


わたしは、ノアのように、^{てん}天のお父様に聞きしたがうことができます。
わたしは^{かみ}神が^{やくそく}約束を守^{まも}ってくださることを知っています。
わたしは^{しゅ}主のいましめを守るとき、^{しゅくふく}祝福を受け^うけます。 ■

色をぬりましょう

てんとうさまやくそくまも
天のお父様は約束を守ってくださいます

子供



アモリス・ピルサハ・ツクナ



十二使徒定員会
ロバート・D・
ヘイルズ長老
(1932 - 2017 年)

主はわたしたちの 重荷を軽くして くださいます

救い主の贖いの力は、本人が望むならば
その人の存在を変えることができます。

わたしは聖典をこよなく愛しています。イエス・キリストの地上での生活について読むのが大好きです。主の生涯は、必要なときにわたしたちを高め、鼓舞し、強めてくれるものであふれています。わたしにとって、すべての聖典の中で最も神聖な章の一つが、ヨハネによる福音書の第17章です。この章はその全体が、イエス・キリストが御父にささげられた執り成しの祈りとなっています。主は、実に「わたしがあなたを知っているように世の人々があなたを知ることさえできれば」と言っておられます。主は御父に、命じられたことをすべて行ったと述べておられます。

時々、わたしたちは救い主の従順さがいかに驚くべきものであったかを忘れてることがあります。主が行われたこと、また主が言われたことはすべて御父への従順さによるものでした。貧しい者を訪ねて世話をし、弟子を召



し、パレスチナの地およびアメリカ大陸で教えられたのは、すべて御父が主に命じられたからでした。主御自身には個人的な動機はありませんでした。主は言われました。「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままと[行う]。」(ヨハネ 8:28) 何と完全な従順の模範でしょうか。

人生において選択するときに、わたしたちは救い主を知る必要があります。「わたしに従ってきなさい」という主の簡潔な勧告は(マタイ 19:21)、本人が望むならばその人の存在を変えることができます。わたしたちが主に立ち返るなら、主はわたしたちの重荷を軽くする力を持っておられます。

主イエス・キリストの使徒として、わたしには救い主の証人としての証を述べる機会があります。わたしは自分

の証が、それを聞く人の心を貫くように、この上なく願っています。

わたしは、イエス・キリストが生きておられることを知っています。主が今現在、預言者を通じて、啓示によって御自身の教会を導き、指示を与えておられることを知っています。救い主を信じる信仰を持つならば、主はわたしたちが試練や艱難かんなんを乗り越えられるよう助けてくださいます。そしてわたしたちは、最後まで堪え忍び、地上での生涯の後に主の前に戻るができるでしょう。主は生きておられ、わたしたち一人一人を知っておられ、愛しておられます。主は、御自身のもとに来る者を祝福したいと強く願っておられます。■

「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号、12-13から。「イエス・キリストは従順の完全な模範です」というこのヘイルズ長老のメッセージ動画を視聴するには、prophets.lds.org から入って、「Special Witnesses of Christ」を選んでください。



Gethsemane, Jesus Is My Light (「ゲツセマネ、主はわが光」)
by Jorge Cocco Santangelo

「(イエスは) また二度目に行つて、祈つて言われた、「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように。」(マタイ 26 : 42)

今月号のその他の記事

ヤングアダルト

大陸の端から端まで： 神殿への旅

妻とわたしは、神殿で結び固めを受けるために南アメリカを横断する困難な旅の中で、奇跡に次ぐ奇跡を目にしました。



44
ページ

青少年

50
ページ



イエスはキリストであられる— 末日の預言者の証

教会の歴代の大管長の証を読むことで、「[キリスト]に学」ぶ（教義と聖約 19：23）ことができます。彼らはキリストの証人であり、天の御父の幸福の計画におけるキリストの神聖な役割についての証人です。

子供

いつでも助けます！

まわりの人々に仕えるための小さくても有意義な方法を子供たちがみつけるのを、どのように助けることができるでしょうか。



66
ページ

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

